

東京 陵 水

賀 正
平成30年 元旦
陵水会東京支部役員一同

年頭所感 母校の歴史に新たな軌跡を刻む データサイエンス学部と経済学部を両輪に

東京支部長 竹森 二郎 (大19)

陵水会東京支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。会員の皆様がお健やかに新しい年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。支部長を仰せつかり二年目を迎えました。日頃より東京支部への変わらぬご支援に対しお礼申し上げます。また昨年七月一日の支部総会並びに懇親会には二百七十名の会員の皆様をお迎えし盛會裡に開催できましたことについてもご報告方々お礼申し上げます。

年初まずもってご報告することは母校の彦根キャンパスの大躍進についてです。ご承知の通りデータサイエンス学部が昨年四月一日に開設され百十名の新入生を迎えました。さる十月発行の「陵水会年報」は、データサイエンス学部創設記念

目次

1面	年頭所感(竹森支部長)
2面	30年総会予告と29年総会
5面	29年総会への想い
6面	慶談会データサイエンス部生
10面	お知らせ
12面	こんにちほ

16面	寄稿
19面	同好会通信
21面	同窓会便り
22面	彦根キャンパスの今
23面	東京陵水文芸
24面	会費納入者一覧
26面	広告・所感・奥付
27面	
28面	

助となるべく努力したいと思えます。

時代への対応を求められる 国立大学

一方、日本の大学全体の置かれた現状を俯瞰すると、安穩としていられないことは明白です。最近読まれている新書の一



冊として、「未来の年表」(河合雅司著)によると、人口減少日

本にこれから起こることとして複眼的な視点での予測が述べられています。その一項として、

二〇一八年国立大学倒産の危機があります。十八歳人口が急減し始め定員割れ大学が増加する。一昨年入学定員割れした私立大学が二百五十七校になったこと。同様に現在日本には七百

七十七大学が設立されている事実も驚きの数字であります。

明々白々な人口減少は食い止めであり、大学の存在自体に危機が及んでいると言えます。

一文を紹介しますと「新時代に対応できず、歴史的役目を果たした大学が教育界から『退場』していくのは仕方のないことだ。人口減少社会における大学の役割とは何か、その在り方を根本的に見直す時が来ている」と結んでいます。

データサイエンス学部は時代を先取る

翻って考えると、わが母校のデータサイエンス学部の創設は、正に時代の要請に答え、且つ先取りしたものであります。

位田隆一学長の言葉を借りれば「彦根の地がデータサイエンス学部のシリコンバレーになる日が続く」ということでしょう。データサイエンス教育拠点として大学の努力はもとよ

り、多くの一流企業が連携に動いてくれるのも自明といえます。何も一大学がよければ善しということではありませんが、母校のOB組織である陵水会の一員として、やはり、諸手を挙げて歓迎し、出来る支援は続けていきたいと考えます。

さて、「酉」年の昨年は会員の皆様にとつてどのような年でしたでしょうか。トランプ米大統領の落ち着かない政策、習近平中国総書記の長期政権化、「一带一路」政策と秘めた覇権主義、金正恩北朝鮮委員長の不穏など、いろいろ思い出します。ただ、

内には在っては昨秋の衆議院総選挙の結果の保守連立による安定政策への期待。さらには巡航速度に戻りつつある世界経済の回復とそれを反映した株式市場の活況など、少しは安堵の胸を撫でおろすこともできたのではと愚考します。さて「戌」年の今年は??。より平穏な一年を予測したいものですが、如何なりますか?

何れに致しましても、東京支部会員の皆様が平穏で健やかな一年を過ごされることを祈念し、又引き続きの東京支部へのご支援をお願いして年頭に当たってのご挨拶といたします。

開催概要

日時：平成三十年七月七日(土)
午後四時半開始(予定)
会場：上野精養軒

(台東区上野公園内)

来賓並びに講演：産経新聞社
代表取締役社長

飯塚浩彦氏(大学29回)
当番幹事・大学三十回(昭和五十七年卒業)からのご連絡

○飯塚氏による講演

平成二十九年六月に産経新聞社社長に就任された大学二十九回飯塚浩彦氏による講演を予定しています。「新聞記者の知る事件の真相と、問題の本質」という演題(予定)で、お話をさせていただきます。

飯塚氏は、大学卒業後陵水会の中では比較的珍しいマスコミ関係に進まれ、産経新聞大阪本

社等で社会部記者としてご活躍されました。通常我々が知りえない事件の裏話や、問題の本質に ついて、興味深い話が伺えるものと是非期待してください。

○支部会員の広がり、永続する交流の場

昨年の支部総会後、前回の当番幹事や支部役員の方々から引

平成三十年度支部総会について

当番幹事 吉田 繁喜(大30)

なったソウル特派員の件や、韓国の慰安婦問題、福島原発の「吉田調書問題」などを仕切ってこられました。

○クラブ・企業・同期の

各ルートで連絡・声掛けを
今回の参加者数目標は、二百八十名です。幹事団のメンバーを中心に、ルート毎責任者を決めて、参加を呼び掛けます。また、若手や女性・新卒会員の情報提供もお待ちしております。

四月に総会の案内状が送付される予定です。どうぞよろしく
お願いいたします。

平成二十九年東京支部総会

(平成二十九年七月一日開催 於：上野精養軒)

二百七十名余の陵水人が集結し『データサイエンス学部創設記念総会』を祝う

平成二十九年度の陵水会東京支部総会は七月一日(土)、例年より三十分早い開始で、午後

四時三十分より「上野精養軒」にて開催された。今年の当番幹事は大学二十九回(昭和五十六年卒)の緒方俊輔氏を代表とする二十名余の諸氏である。

来賓に陵水会副理事長兼大阪支部長の山田督氏(大19回)及び、竹村彰通滋賀大学データサイエンス学部長をお迎えし、竹村学部長には記念講演もお願いした。写真記号は文中該当部分

の学歌斉唱(A)と共に総会の幕が切つて落とされ、和田博之幹事長(大19回)による「開会宣言」が行われた。



(A)

- はじめに竹森二郎支部長(大19回)が挨拶。まず大会場を埋め尽くす二百七十名余の参加者に盛会の御礼があり、続いて母校にデータサイエンス学部が創設された喜びを分かちあうべく「データサイエンス学部創設記念総会」と銘々した旨を説明。また、今年度の総会は当番幹事の要請もあり、中堅・若手の参加者が出来るだけ交流と懇親の時間を持てるように例年より三十分早い開会とした。「本日も参加の皆様はできる限り年代を超えて交流いただき、ごゆるりとお楽しみ戴きたい」の主旨である。
- 〔支部長挨拶要旨〕は東京支部ホームページを参照下さい。
<http://m-pocco.jp/tokyoryosui/greetingmsg/>
- 続いて、山田副理事長兼大阪支部長よりご来賓の祝辞を戴いた。山田副理事長は東京支部総会の盛会を祝し、次の三点についてお話しを戴いた。
- ① 母校が、文科省より「データサイエンス重点強化大学」として北海道大学・東京大学・京都大学・大阪大学・九州大学と共に選ばれ、評価が大きく前進している。
 - ② 四月に陵水会は「一般社団

法人「陵水会」へ組織化した。また若い人・若い力が陵水会にも多く参集戴いて、若い人にとっても大いに魅力のある会にすべく現役学生を「準会員」とし、正式に陵水会員とする定款変更を行った。

第二部 講演

③ 陵水会の健全な活動を維持するためにも年会費（本部・支部）の納入をお願いしたい。「山田副理事長ご挨拶要旨」は東京支部ホームページを参照下さる。

<http://m-p-o.co.jp/tokyoryosui/sokai2017/#parg2>

① 今年は滋賀大学データサイエンス学部の記念すべき初年度にもあたることから、竹村彰通データサイエンス学部長(D)に特別にご講演を御願した。「竹村データサイエンス学部長講演要旨」は東京支部ホームページを参照下さる。

<http://m-p-o.co.jp/tokyoryosui/sokai2017/#parg3>

② 続いて滋賀県庁のご協力を得て、琵琶湖をテーマにした映画『マザーレイク』の監督である瀬木直貴監督(E)から映画のご紹介をしていただいた。



(E)

ただいた(F)。

例年通り、会場内には彦根観光協会のお骨折りにより彦根物産展が設けられ(G)、懐かしい菓子や鮎などが販売された。



(G)

顔触れが並び、今後の抱負を力強くアピールした。

彼ら新会員は、来年度当番幹事(大30回)の先輩たちのガイドにより各テーブルを回って多くの先輩と名刺交換をしたり、随所で談笑に花を咲かせて懇親会を楽しんだ。

また、今年も詩吟同好会「新陵会」により、李涉作「武関に宿る」の大合吟が場内に響き渡った。(I)



(I)

第一部 総会議事

議長に鈴木重成氏(大7回)を選出し、平成二十八年年度活動報告(和田博之幹事長)、収支決算報告(協阪守事務局長)、監査報告(岡田憲治監事)(C)、



(B)



(C)



(D)



(F)

③ また「彦根城築城四百十年」を記念して、彦根市産業部観光企画課の牛澤淳課長と「彦根市地域おこし協力隊」の久保さゆりさん(大62回)から興味深いプレゼンを行って

第三部 懇親会

ご来賓の山田副理事長のご発声で懇親会が始まった。テーブルの席順は卒業年次、女性、新卒、幹事などと歓談が容易にできるよう配慮され、壇上には今年三月に大学を卒業したばかりの「新会員」(H)のフレッシュな



(H)

暫し歓談の後、グリークラブOBの「琵琶湖周航の歌」の斉唱(J)が行われ、参加者全員の大合唱が続いて、感慨に浸るひと時が過ぎた。

楽しかった懇親会も終盤にさ

しかり、当番幹事の「引継式」が行われた(K)。今年の当番幹事代表・緒方俊輔氏の挨拶に続き、来年(七月七日)の当番幹事代表・吉田繁喜氏が力強い抱負と誓いの言葉を述べた。



(J)



(K)

懇親会は、古田悟朗氏(大29回)によるエール(L)に続く高商校歌の大合唱の後、箸方海三氏(大4回)の音頭で三本締めを唱和し、幕を閉じた。



(L)

総会&懇親会終了の後、舞台を隣の「桐の間」に移し、恒例の「二次会」を今年も企画して総会出席者のうち百三名が集結、懇親の輪は何時いつまでも途切れることなく、夜遅くまで陵水会員の溢れんばかりの熱気に包まれていた。

平成二十八年年度収支報告

次年度繰越金一、九三六、八〇二
計 五、七五〇、四四六

平成二十九年年度収支予算書

○財産目録(単位円・以下同じ)

予算執行率 一〇三・八%

【支出の部】

現金 二二、六三五

前年比 一一三・四%

総会費 二、七〇〇、〇〇〇

普通預金 一、五〇九、五九九

総会費 一、〇三三、八〇〇

運営費 一〇〇、〇〇〇

郵便預金 一、一〇三、五六八

年会費収入 一、四六一、〇〇〇

印刷費 四〇〇、〇〇〇

定期預金 一、〇六〇、〇〇〇

総会費収入 一、九一六、〇〇〇

通信費 五二〇、〇〇〇

合計 三、六九五、八〇二

寄付金収入 一、二八、三〇〇

広報活動費 一〇〇、〇〇〇

○貸借対照表

新聞広告収入 二四〇、〇〇〇

事務用品費 一五〇、〇〇〇

【借方】

本部活動助成金収入 一二三、九〇〇

交通費 二〇、〇〇〇

現金預金 二、六三五、八〇二

雑収入 九、三六二

雑費 五五、〇〇〇

基本金引当金 一、〇六〇、〇〇〇

前年度繰越 一、八七一、八八四

次年度繰越金 一、八一九、一〇二

合計 三、六九五、八〇二

計 五、七五〇、四四六

合計 五、九一四、一〇二

【貸方】

前年度繰越 五、七五〇、四四六

前年実績比 一〇二・八%

前受金(注一) 六九九、〇〇〇

年会費納入者数 四八七人

年会費収入 一、五〇〇、〇〇〇

基本金 一、〇六〇、〇〇〇

(前期四六七人・前々期四五二人)

総会費収入 一、九五〇、〇〇〇

繰越金 一、九三六、八〇二

総会費収入 七千円が二百五十名。三千五百円が二十名。

寄付金収入 一五〇、〇〇〇

合計 三、六九五、八〇二

二次会会費千円が九十六名。来賓新卒者等は招待。

新聞広告収入 二四〇、〇〇〇

(注一) 前受金・翌年度の年会費受け入れ二二三三人分(前年より十三名増加)

本部活動助成金収入 一二三、九〇〇

雑収入 一三二、三〇〇

○収支計算書

雑収入 五、〇〇〇

【支出の部】…実績

雑収入 一三二、三〇〇

総会費 二、六〇〇、八四四

前年度繰越金 一、九三六、八〇二

合計 五、九一四、一〇二

運営費 六三三、二五〇

年会費について、十三名以上の増加、五百名の達成を目標とする。広報活動費はHP機能充実。編集活動費は東京陵水編集部活動強化。交通費は支部活動活発化のために増額。

印刷費 三九三、八五三

印刷費 三九三、八五三

通信費 五一一、一八七

広報活動費・支部ホームページのメンテナンス経費。雑費・年会費等の振り込み手数料など。

通信費 五一一、一八七

広報活動費・支部ホームページのメンテナンス経費。

編集費 一〇〇、〇〇〇

広報活動費 六六、三九〇

事務用品費 一九、二三四

交通費 一、八六七

編集費 一〇〇、〇〇〇

交通費 一、八六七

雑費 五五、〇一九

事務用品費 一九、二三四

雑費 五五、〇一九

交通費 一、八六七

雑費 五五、〇一九

雑費 五五、〇一九

雑費 五五、〇一九

雑費 五五、〇一九

雑費 五五、〇一九

雑費 五五、〇一九

雑費 五五、〇一九

雑費 五五、〇一九

平成二十九年年度 支部総会を振り返って 当番幹事 緒方俊輔（大29回）

去る七月一日、上野精養軒に二百七十名の会員の皆様にご参

集頂き、平成二十九年年度支部総会を無事に開催することができました。ご参加の皆様、支部役員はじめご協力頂きました皆様に、心より御礼申し上げます。本稿では、今年の総会・懇親会の運営について、当番幹事の取り組みテーマとした、

- ① 新学部設立記念、
 - ② 会員交流促進、
 - ③ 女性会員の参加拡大、
- の三点を中心に、振り返らせて頂きます。

まず、①新学部設立記念というところで、竹村彰通学部長の講演が今回の鍵でしたので、示唆と機知に富むお話を頂いたことは非常に有難いことでした。そして、学界、教育界、経済界から大いに注目・期待されている日本初のデータサイエンス学部の設置を、多くの会員の皆様に直接伝えられたことは意義があったと思います。

次に、②会員交流については、今回の新しい試みとして、次期

当番幹事（大30回）の皆さんに新卒会員を各テーブルに紹介して廻ってもらいました。これがきっかけで、会場内のあちこちで、様々な年代間で名刺交換や会話が進み、予想を上回る大盛況となりました。

③女性参加者については、目標の三十名には届きませんでした。女性幹事によるメール・葉書での参加勧誘を通じて、支部総会・懇親会に対する認知・関心が進んだ手応えがあり、今後の女性会員参加の態勢整備にもつながると感じております。

その他も含め当日の詳細につきましては、陵水東京支部HPに掲載されております和田幹事長による「報告記事 <http://m-poco.jp/tokyoryosui/>」を参照頂きたいと存じます。

さて、竹村学部長のご講演や来賓山田督副理事長のご挨拶に接し、国立大学を取り巻く環境が大きく変わっていく中で、本学にとっても歴史的な転換点が来っており、OB会組織である陵水会も一般社団法人への組織化など変化しようとしていることを、あらためて感じました。そんな中で、支部総会・懇親会は、進化する大学、OB会の姿を会員に伝え、幅広い会員の交流に

も資する場であり続けることが大切だと思えます。今回二十九年度総会運営で取り組んだことが、今後の総会のあり方に資することになれば、当番幹事として望外の幸せです。ありがとうございます。

総会に出席して

尾澤 卓治（大65）

この度は陵水会東京支部総会に参加させていただきました。業種や部署、年代を問わず、多くの滋賀大OBの先輩方と交流することのできる素晴らしい総会でした。滋賀大学の先輩方が様々な業界で活躍されている話を聞くことができ、刺激を受けることができました。私も滋賀大学卒業の名に恥じぬよう精一杯、仕事に励もうと決意を新たにできました。私たち新入会員が多

くの方とお話していただけるように、担当の方を決めて、各テーブルを一緒に回っていただく御配慮、大変ありがたく存じます。社会人になり東京で営業の仕事をする中で、人との縁や繋がり大切さを深く感じるようになりました。同じ大学出身という縁を大切に、次回以降も支部

総会には積極的に参加させていただきたいです。今後ともどうぞよろしく願います。最後になりましたが、今回の総会の当番幹事の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

吉田 陽太（大65）

この度は陵水東京支部総会に参加させていただきました。誠にありがとうございました。私は現在、みずほ証券株式会社に勤務し、営業業務に携わっております。大学の四年間では漕艇部に所属し、彦根キャンパスと大津の合宿所を往復する生活を送っておりました。また、澤木ゼミにも所属していたので、研究発表の中で近江商人の歴史についても深く学ぶ機会がありました。

支部総会では名刺を渡して回ることで、金融機関や漕艇部の先輩方に挨拶することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。新卒一人に対し、担当の先輩が一人ついて挨拶回りのサポートをするという体制は本年度からの試みと伺いました。新卒の立場では、初めての支部総会で緊張することもあり、

またどこに挨拶したい先輩がいらっしゃるのかも把握できていないことが多いです。そのため、このような体制は非常に助かりました。来年度からも継続すること、より縦の繋がりにおける壁が無くなると思います。

残念なこととしましては、やはり新卒の参加率が低いことです。新卒は支部総会の内容を知りません。そのため大学生活の部活やゼミで直接関わってきた先輩から説明し、参加の呼びかけをすることがさらに必要だと感じました。

簡単ですが以上を感想とさせていただきます。まだまだ若輩者ではありますが、来年度からも支部総会には参加させていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

支部総会に出席して思うこと。
陵水会活動への思い

大脇 由佳（大65）

今年度の陵水会東京支部総会に新社会人、そして新陵水会会員として参加させて頂きました。陵水会がこれほどまでに脈々と受け継がれ、また業種を超えた新しい出会いの場であることは

大学在学中には全く予想しておりませんでした。入社して半年

ではありますが、なかなか他業種の方、そして第一線でご活躍されている先輩方からお話を聞く機会は少なく、新人としては非常に有意義な時間を過ごさせて頂きました。皆様の御経験から頂いたアドバイス、激励は今の私の糧となっております。

ただ一点、陵水会に参加して残念に感じたのは、まだまだ若手、中堅層、女性の参加者が少ないことです。より若手が積極的に参加し、活気の溢れる陵水会東京支部にできるように大学在学中から陵水会を身近に感じてもらおう活動はできないかと現在考えている次第で御座います。

最後になりますが、皆様に温かく迎え入れて頂きましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。また、とりわけ我々新会員の世話人を務めて下さいました二十九期生の皆様には深謝致します。今後とも末永く宜しくお願い申し上げます。

豊かな歴史と

強い結束に背中を預け

小野木 俊介 (大65)

学生時代は体育会サッカー部に、ゼミは宮西ゼミに所属し、現在ゴールドマン・サックス証券に勤務しています。

過日は陵水会東京支部総会に参加させていただき有難うございました。「こんなに集まるのか」これが会場上野精養軒についた時の真っ正直な感想でした。本OB会以前に、我々新卒会員のために開催していただいたプレ懇親会でその概要についてお伺いしていましたが、会場の雰囲気から私は圧倒されてしまいました。

驚く私を先輩方が優しくテーブルまで案内してくださり、会中ではグリークラブOBによる学歌斉唱、和田幹事長による開会宣言、竹村彰通データサイエンス学部長による特別講演、映画「マザーレイク」の紹介、「彦根築城四百年」を記念して彦根観光企画課により懐かしい関西弁のプレゼン、詩吟同好会「新陵水」による荘厳な大合唱、大エール&彦根高商校歌の大合唱など、本当に数多くのことを閃光のように体験させていただきました。

また大変恐縮でしたが段上で新卒会員としてご挨拶をさせて頂き、「滋賀大学のOBになったんだ」という思いもこみ上げ

(卒業単位に何とか届いたという思いがこみ上げ)、嬉しく感動したことを覚えております。

特に今回は新卒会員向けの特別企画ということで、数々の先輩方と直接お話をさせて頂いた機会を頂戴いたしました。先輩方は優しく迎えてくださり、激励や社会人として学ぶべきことなど、数々のお言葉を頂戴しました。本当にありがとうございました。

陵水会東京支部総会に参加しました。

特別座談会 データサイエンス学部生を囲んで

△田川▽

来年一月に発行される「東京陵水」一〇五号は、データサイエンス学部創設という画期的な出来事を踏まえて、新しいデータサイエンス学部の方たちのインタビュー記事を掲載しようではないかということになり、こういう場を持たせていただきました。

まずは自己紹介をお願いします。私は「東京陵水」の編集部の田川行雄と申します。

△松田▽

滋賀大学データサイエンス学部一回の松田です。ユースホステル部に入っていて、あと写真部と茶道部に入っています。

△石原▽

せていただいて、滋賀大学OBでいられることの素晴らしさを知りました。思い出の地・彦根からは遠く離れた東京ですが、周りにはいつも心強い先輩方や、仲間がいる、そのように実感しました。陵水会・滋賀大学に貢献できるよう今後も頑張っていきたい、総会にてそう決意しました。

△高田▽

データサイエンス学部の教授を務めております、高田と申します。三月までは総務省統計局で仕事をしておりました。四月にデータサイエンス学部が日本に初めてできるといふことで、総務省としても全面的にバックアップしようということ、私が送り込まれたわけでございます。本日にデータサイエンス学部の学生諸君、意欲を持ってやってくれているので非常に期待しておりますけれども、陵水会の皆様にもいろんな形でサポートいただいております。今日はここに感謝しております。今日はこういう席を設けていただきました。ありがとうございます。

データサイエンス学部一回生の石原です。よさこいサークルと茶道部に入っています。

△岡本▽

データサイエンス学部一回岡本です。部活は入ってないのですが、サークルは生協学生支援に所属しています。

△城出▽

経済学部経済学科四年生の城出と申します。私は陵水新聞会の編集長を担当したり、放送研究会でラジオ番組やったり、あと写真部で写真撮ったりしております。また、統計学のSAを担当しております。SAというのはコアセッション(ミクロ経済学・マクロ経済学・統計学)という科目において、教壇に立

●データサイエンス学部
受験の動機

△岡村▽

「東京陵水」編集部の岡村和哉

と申します。滋賀大学にデータサイエンス学部があることを知ったきっかけを教えてください。

△岡本▽

僕はAO入試で入りました。

受験間際になって、先生に「ここAOで入れるぞ」って言われて、僕、文系だったんですけど、文系でも入れるということ、データサイエンス学部に来ました。

△石原▽

僕は最初プログラミング系のパソコン使うものに興味を持っていて、高校の先生に話を話したら、いろいろな大学のそういった方面の資料を見せられて、データサイエンス学部っていうのがあって、ちょうど僕の偏差値にも合うし興味もあるし、ということ受験したら、後期に無事受かりました。

△松田▽

僕はもともと文系で、新聞の広告でデータサイエンス学部っていうのを見つけて、そこに日本ですべてみたいと言いが書いてあったので興味を持ち、受験しました。もともと文系だったんですけど、パソコンとかいじるのは好きで、文系から入られて、パソコンにも興味もあつたので入りました。

●講義について

△脇▽

「東京陵水」編集部の脇昌之と申します。二人は文系ということでしたが、授業難しくないですか。

△学部生一同▽

苦労しています。



△岡本▽

准教授の人に朝、ゼロ時限と言って、七時から数学教えてもらっています。そうしないとやっていけないレベルです。

△岡村▽

じゃあそういうサポートもあるんですね。

△岡本▽

そうですね。サポートっていうかその先生と仲良くなったので、その先生から教えてやるよ

って言われて、教えてもらっています。

△高田▽

やっぱりデータサイエンスって数学が基本ですし、我々も付け焼き刃の子を育てるつもりはないので、やはり数学はきちんと教えたいということで、一年生で微積分やったり行列やったりしています。また、データサイエンスって大量のデータを扱うんで、線形代数、行列の計算とか絶対に必要ですから、そこも教えます。

△岡本▽

高校のときにも僕は数学は「数1A」しかやってこなかったんです。それで、データサイエンス学部に入ったら「数2B」と「数3」もやっているの、何も分からないところから始めています。でも、周りは結構できていて、小テストとかやるとみんなさらさらとやっている。

△石原▽

やっぱり理系からくるとそういうところは大丈夫で、僕は解析はまだ微分と積分はいけるんですけど、線形代数がちょっと苦手、行列がどうにもちょっと分からないです。

△松田▽

僕は普通の受験生だったん

で、「数2B」までは文系でやって、「数3」は全く分からないまま。理系の友達多かったんで、少しずつ話を聞きながら来たって言うぐらいで、春学期は何とかテスト前に凄く勉強して耐えて。で、今も苦戦中という感じはあります。

△高田▽

僕はいつも授業で隣で受けている理系の友達がいって、そいつをよく捕まえてここのうやうやのって、ずっと教えてもらっています。

△脇▽

こう言うと怒られそうですけど、授業には出ているんですね。

△岡本▽

さすがに出ていますね。

△岡村▽

そこはやっぱり経済学部と違うんですか。経済学部は授業に出ていますか。

△城出▽

出ていないですね(笑)

△脇▽

やっぱりお話を聞くと結構授業に出ないとなかなかついてくのが難しいのですか。

△岡本▽

数学だと結構一回出ないと。一回の授業で進む速度が速いので。

△高田▽

大学側が出るように仕組みを作っているとかではなくて、学生自ら出ないとついていけないようになっていきます。

△石原▽

そうですね。出席とかないうちでもほとんど出ています。

△岡村▽

データサイエンス学部は一年目だから、授業も経済学部と、あんまり変わらない生活なのかなど思っていたんですけど、経済学部と既に違っているんですね。

△岡本▽

そうですね。経済学部とはもう違う感じするかも。交流もないです。

△石原▽

サークルしかありませんね。

△脇▽

交流するには忙しすぎるのですか。

△岡本▽

いや、授業が全然かぶらないんです。データサイエンス学部は必修科目が多いので。

△岡本▽

経済学部はほとんど自分で時間割を決める形らしいんですけど、データサイエンス学部は二十単位ぐらいが必修で、経済と一緒に授業がとれないというこ

とです。

△田川▽

データサイエンス学部のカリキュラムは、学部設立のときから一回生からたくさん基礎の授業をとるという意図とかがあるので

△高田▽

そうですね。やはりきちんと基礎は教えたいと思つてそういうカリキュラムにしました。PBL演習というのですが、課題を我々の方が出して、学生諸君にそれを実際解いてもらうという授業をできるだけたくさんやりたいと思つて、いまして、すでに一年後期、今から始まっています。それをやるためにはやはりコンピュータも使えないといけないし、データハンドリングもできないといけない。だからそれを最初にきちんと教えています。ここ苦しいところを乗り越えたらあとは楽しくデータを扱える。最初の努力はやつてくれたことなんですよ。

△岡本▽

先生方も数学が楽しいっていう人が多くて。

酒を飲みながら数学の問題解くのが一番楽しいっていう方が多くて、やはりちよつと違うなっていう気はします(笑)

△田川▽

でも先生と親しい感じとか、結構先生とつながりが深いという雰囲気は伝わります。

△高田▽

人数少ないですし、前期から結構小クラス編成の授業一個あったんですよ。プレゼンテーション論っていう名前、それは本当にパワーポイントの使い方から始まって、あとデータサイエンスって結局就職してから企業の方ですとか、データをもたう人とかといういろいろお話ししなきゃいけない。そして、数学もやんなきゃいけない、コンピュータもやんなきゃいけないので、本当にいろんな知識が必要なんです。一人一人は、なかなかそんなスーパーマンにはなれない。だから、データサイエンスっていうのは就職してもチームで仕事やることが多いんです。ということ、コミュニケーション力って本当に大事なので、我々も一年生の初めにちゃんとみんなに話ができ、人

△脇▽

ちなみにこれまで授業受けてきて、この分野面白かったなとか、興味を持った分野はありますか。

△岡本▽

プレゼンテーション論とかは自分の好きなことでよかったです。好きなことを自分で調べてプレゼン作って発表するのは楽しいなあと思つたし、友達から意見とか聞けたんで、楽しかったです。

△石原▽

僕は、プログラミングとかで、パソコンでああいうコードとか打ち込んで、答えが上手く出たりすると、ああ、楽しいなっていうのを感じます。

△松田▽

僕はプレゼンも結構自分の好きなことについて話すっていうのは楽しかったですし、プログラムも自分が習って少しずつできるようになって、ああ、あいつこういうことやってたんだっていうのがだんだん分かってきたんで、そこは楽しいですね。

△岡村▽

やっぱり文理融合って言われていましたけど、文系を入れるっていうのは、プレゼンテーションとか、統計の使い方とかの

分野で活躍してもらうために、文系を入れてるっていうことなんです。

△高田▽

そうですね。データサイエンスティストとして、活躍している人の話聞いているとやっぱり理系から行った人もいますし、大学のときは文系だったけれども、会社に入ってからマーケティングとかからデータサイエンスに入ったという人もいらっしゃるんです。やはり応用分野ということになると文科系の知識も必要です。そういう、今働いているデータサイエンスティストを見て、やはりこれは両方必要だ

とりあえず今はデータサイエンスよりもその前の数学でつまづいてるので、そこをどうにかしないと。

△石原▽

将来、やっぱり今こうやって勉強していて、もし本当になれるんだつたらデータサイエンスティストを目指したいですし、もしだめだったとしても、関連の仕事に就きたいと思います。

●将来の進路について

△岡村▽

将来はデータサイエンス関連の職業に就きたいなという希望はあるのですか。

△岡本▽

そうですね。このデータサイエンス学部に入ったので、最終的にはそうなりたいとは思っているんですけど、難しいなとも思っています。

△松田▽

やっぱり日本で初めてできた学部で勉強しているというのはあるので、何らかの形で生かせる職場に行きたいなっていうのは考えていますね。

△高田▽

確かにデータサイエンスティストってまだ新しい職業ですし、



世の中のデータサイエンティスト

●経済学部との壁について

トってどういう人がいるんだらうって、あんまりイメージできてないところがあるかと思うんです。ですから、できるだけ卒業したらどうい職業に就くんだらう、どうい将来図を描けるんだらうといことを考えてもらうために、今いろんな企業でデータサイエンティストとして活躍している方をお招きして、こういうことを実際に企業でやってるんだよってい話を聞いてもらい講義を始めています。前期は日本IBMさんにご協力いただいて人工知能を使ってみるっていことやったんですけれども、後期はもつといろんな分野からお招きしようっていこと、この前も野村総合研究所から来ていただいたんですけれども、来週はIT関係の分析をする会社、あとは一般の小売業ですとか、金融機関とか、いろんなところでデータサイエンティストとしてどういことをやってるかについて話をオムニバスのに聞いてもらいといことを考えておられますので、そうするとだんだん将来像も見えてくるのかもしれない。

●学校生活について

女性三割ぐらいるんですか。

△岡村▽

経済学部と違うなっていうのは感じますか。

△岡本▽

壁があるなっていう感じですね。先輩がいなくていのがつらいですね。

△石原▽

履修決めるときも先輩たちにどれがいいかとか聞けないんで。学生だけで、これどう、みたいなことをやりました。

△脇▽

でも、部活入っていると少しは壁はないのではないですか。

△松田▽

部活では全然感じないですね。ただ、例えば語学の話だと、僕ら第二言語とらないので、例えば中国語のあの先生あんなときおかしかったよねとか、あの話し方変だよ、みたいな話が周りで楽しそうに行われてると、入ってみたいなっていう気持ちになりますね。そういつた意味での壁っていうのはあるかもしれないですね。お互いのジョークが通じないとか、そういうのはありますね。

本当に自主的に集まろうっていうことでやっています。我々も、一年生からゼミはなく、あんまり学生と接する機会もなく寂しいという思いもあり、数学ばかりガリガリやっていても楽しくないだらうっていのがあった。読書会みたいなのもやったり、あとはうちの研究室にロボットのPepper君がいて、そのプログラミングをやってみましようとか、そういう集まりをやっています。

△岡本▽

ラーニングコモンズという、データサイエンス学部のたまり場みたいなところがあって、そこにそのPepper君が置いてあったり、そこにいろんな先生とかが来るんですよね。いろいろ先生来て、そこで話したりして先生と仲良くなるっていことが多くですね。

△脇▽

そういうの経済学部では、今も無いよね。

△城出▽

まったく無いですね。自主ゼミとかそういうのは全く聞かないですね。

●彦根の印象について

彦根の印象はどうですか。

△岡本▽

彦根はいいところだと思いましたが。近所の人も凄く優しいです。

△松田▽

僕、時々隣の一軒家のおばちゃんとか話したりします。いい人が多いので、凄くそこはうれしいですね。ただちょっとやっぱり微妙に不便に感じます。必要最低限の物しかないというの。

△岡本▽

不便すぎて、何をするにもとりあえず名古屋に帰っています。でも、スーパールとか薬局が多いのと食事が安いのはいい。

△田川▽

東京の先輩と話していると、彦根はやっぱよかったっていう人が多い。懐かしさを含めて言う人多いかもしれないが、ぜひ今から、彦根のいい思い出を作ってほしいと思うんだけど。

△高田▽

とりあえずお城にタダで入れるじゃん。

△松田▽

めっちゃくちやうれしかったですね、僕は。お城が好きなので、

お知らせ

いいキャンパスなんだなって思いますけどね。毎日好きな物を眺めながら登校できるっていうのは。僕個人としていいキャンパスだと思ってます。
親も凄い良いところだなって言います。

●先生から見た 学生の印象について

最後に先生から見て、今の学生の印象だとか、期待についてお聞かせください。

△高田▽

本当に一回生としてはみんな意欲を持ってきてくれたと思います。彼らに先輩がいないので困ったときに誰に相談すればいいのかっていうのは、本当に申し訳ないなというのはあるんだけれども、おかげさまで陵水会に我々も混ぜてもらっていますので、例えば就職のときなど経済学部の強力なOBがサポートしてくれそうです、それは安心してほしいなと思う。

本当に今の学生さん、いわゆるデジタルネイティブ世代ですから、我々と違って、コンピュータに全然抵抗ないですし、そういう意味では、データ分析するっていうことはできると思う

し、これからも一層そういうスキルは身に付けていってほしいと思います。数学で苦労するっていう話あつたけれども、今だからできるんで、これが三十歳、四十歳になつてからはできない。

やっぱり、若いうちに苦勞して頑張つてくれれば本当に良いデータサイエンティストになることができるって期待しています。データサイエンスの勉強をした経験は必ず何らかの形で生かると思いますから、思い込みだとか、今までの流れで何となく物事を決めるんじゃないで、客観的にきちんと論理立てて、物事を決められること、それっていうのはやっぱり、今後、外国の人とかとも接することあるでしょうけども、そこできちんと論理的に話ができるっていうのは大事な能力だと思いますから、そういうことは今後とも頑張ってもらいたいなと思います。

△田川▽

本日は皆様のご予定あるところを、ご出席いただき、貴重なお話を有難うございました。

陵水会の一般社団法人化と 定款の改正について

◆一般社団法人化と経緯

陵水会は平成二十九年四月三日(月)一般社団法人陵水会へ衣替えしました。これまでの任意団体から法人格を有する組織へ変わって、組織基盤が強固になり社会的な信用と存在感が更に大きくなります。

陵水会理事会において平成二十八年に一般社団法人化に向けて定款の見直し、設立時役員及び主たる事務所所在地を彦根に置く等の決定を行い、同年十一月に長浜公証人役場にて一般社団法人陵水会の定款認証を受けました。

これまでの陵水会は平成二十九年三月三十一日をもって解散し、同年四月三日(月)大津法務局に一般社団法人陵水会の設立登記申請を行い、同日付けで設立登記が完了しています。

◆活動の基本方針

一般社団法人陵水会は、平成二十九年年度活動の基本方針を次のように定めています。

○将来を見据えた組織力の強化
・若手・中堅層の活力引き出し
：ネット交流や支部活動の多様化促進

・年層毎の中核人材育成
・安定した財政基盤の確保
○勝ち組に向けての母校並びに学生への支援体制強化
・学生の準会員化による陵水会
・大学・学生の交流促進と一体感醸成

・循環型の後輩支援文化の定着支援
この基本方針のもとに、大学支援・連携・交流事業及び陵水会事業を力強く展開していきます。特に陵水会を構成する会員をこれまでの会員(正会員・特別会員・名誉会員)に加えて、新たに在学中の学生を準会員とする定款の改正を行いました。

将来を見据え、若い力の参集と多岐にわたる年代層の積極的な交流を通して陵水会が力強く発展してゆくための改正です。

◆定款改正の要点

在学中の学生を準会員とする定款改正の要点は次の通りです。
○準会員を設けた趣旨

学生は入学時に陵水会へ入会金を納付していること、及び在学中に陵水会から奨学金や各種補助金を受けることがあるため準会員として明確に位置づけし、陵水会を身近に感じてもらおうと共に在学中から陵水会活動に参加しているという意識を持つことが望まれる。

○準会員の資格
・滋賀大学経済学部在籍する学生
・滋賀大学データサイエンス学部在籍する学生
・滋賀大学大学院経済学研究科に在籍する学生

○準会員の年会費免除
・準会員は年会費の支払いを免除される。
この改正は、平成二十九年六月三日の陵水会総会の承認より施行し、この法人の設立の日(平成二十九年四月三日)から適用されます。

なお、一般社団法人陵水会と定款の全文は次のホームページアドレスをご参照ください。
・一般社団法人陵水会ホームページ：<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/ryosui/>

・定款の全文：<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/ryosui/teikan.pdf>

「Next Ryosui」活動について

昨年の「東京陵水」の竹森支部長による年頭所感でも触れられていましたが、東京の滋賀大学OBによる新しい試み「Next Ryosui」という活動が行われています。ネクスト陵水は、中堅・若手の懇親会で、二〇一六年十月十二日に第五回が行われました。その幹事である吉田繁喜氏（大30）、服部進氏（大37）、芦田（大48）氏、弥田有三氏（大48）、徳川喜則氏（大50）にお話を聞かせていただきました。

◎参加者はどのように集まったのですか？

ほぼ口コミ。参加費は若い年次からは二千元〜三千元。実際の単価は数倍かかっているが、先輩に当たる年次のカンパや、協賛を貰うことで賄っている。

後輩が参加しやすいように参加費のハードルを下げたり、あえて「仕事で繋がろうよ」という雰囲気を出したり、若い年次が面白いと思える企画を作ることなどで若い年次が集まれるようにした。

◎ネクスト陵水をどのような会にしていきたいですか？

普通に社会人をしてしていると滋賀大学の出身者に会うことがほとんどない。それが、出会える場にしていきたい。ネクスト陵水は出来るだけ仕事にも直結するような集まりにしていきたい。殆どが現役なので「仕事でも関わられたらね」というのが一つのテーマ。

将来的には分科会もやりたい。マーケティング部会、不動産部会、金融部会など。また今は東京陵水総会とも更に連携をとって行くことも計画している。若手が東京陵水総会の前にネクスト陵水に参加することで、東京陵水総会に出たいと思

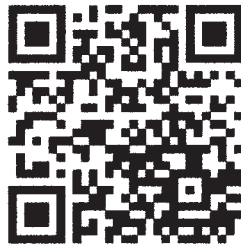
うきっかけ作りにもなっている。ありがたいと思っている。

◎次回の開催は？

次回は二〇一八年二月二十一日（水）に開催します。

次回も若い年次の皆さんに、楽しんで貰えるゲストや企画を考えているところなので、楽しみにしていて下さい。

事前エントリーフォームの次のQRコードからも申し込みできます。



*本日はお忙しいところ貴重なお話を戴き有難うございました。



α+ ALPHA PLUS CO., LTD.

代表取締役 **岡本幸博** (大25回)

株式会社 アルファプラス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-37-8 白鳥ハイツ206号

TEL (03) 5474-0593 FAX (03) 5474-0594

携帯電話 090-3220-0595 E-mail : okamoto@alpha-plus.co.jp



クレド アドバイザーズ株式会社

代表取締役社長 **門平孝二郎** (大19回)

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-3-403

TEL 03-6303-2455 FAX 03-6303-2456

E-mail : credo-ad@biscuit.ocn.ne.jp

こんにちは

上林 好一氏 (大26回)

かんばやし よしかず

ベスト・ソリューション株式会社代表取締役。滋賀大学経済学部を卒業された後、南カルフォルニア大学経営管理修士(MBA)を取得され二〇〇二年に現在の会社代表に就任されています。多くのお話しをいただきましたが、紙幅上少なからず割愛した部分があることを了承下さい。

——本日はお忙しいところ、ありがとうございます。

上林 どうして今回、私のような者が「東京陵水」に登場する事になったのか、経緯を御存知でしょうか？

実は、昨年十月の役員会で、次回のインタビュー記事の事が話題に上り、その席で「そうですよ。例えば私くらいハチャメチャな人生を歩み、七転八起して来たような人をたまには探して、インタビューしましょう」と言っ、私の経験を話し始め



たら、「面白い、今回はお前がやれ」という事になってしまった訳です(笑)。今日は大学に在学中の学生の皆さん、会社に入られて一二年目の特に若い方々を中心に、少しでも参考になるようなお話が出来れば幸いという意気込みでやって参りました。

●滋賀大での学生生活

——滋賀大を選んだのは？

上林 実は大学は経済でも経営でもどちらでも良かったんです。元々は法学部を志望していましたが、卒業後は海外で仕事が出来たいという確固たる気持ちがあつて、大学は海外を目指す過程に過ぎないと考えていました。

——どのような学生生活でしたか？

上林 当時は実質競争率約九倍の状況でしたので、大学に入学する前は、それなりに勉強はしたつもりです。ですが、いざ入ってしまったら、それこそ「燃え尽き症候群」で、全く勉強をしなくなりました。必修以外の授業にはほとんど出

ず、前期・後期の試験の前になると、真面目に出席している人のノートを借りて来ては図書館

の入り口にあった青刷りのコピー機を絶えず占領しておりました。当然ながら成績も最低で殆どの学科が「可」、後は「優」が五、六個、残りは「良」という成績で典型的な「落ちこぼれ」でした。当時は流行っていた言葉通り、真正正銘の「可取り線香」でした。

——クラブ活動は？

上林 クラブはE.S.S.に所属しました。英語は得意科目の一つでしたので、漠然とでしたが、出来れば将来は商社に入りたいと考えておりました。

——学生時代にされたことは？

上林 当時の学費は初年度入学金一万二千元、月額三千元と安かったもので、全てアルバイトでまかなえる状況でした。余りにも安く、自宅も東近江市の能登川だったものから、全て自分で稼ごうと決めました。週二

回の家庭教師を三軒、合計週六回の家庭教師を四年間続け、他のアルバイトを合わせると月に十万円近くを稼いでおりました。そのお蔭で、学生時代は非常に裕福でした。

——ゼミは？

上林 ゼミは、吉田貞夫教授のゼミで、私たちがゼミ一期生でした。当時の越後、有田、伝田、

仙田、片山等の「看板ゼミ」から全て断られて、他に受け入れてくれるところが無かったのです。

そこでゼミ幹事に任命されました。与えられた任務と言えは、当時の学生としては珍しく車で通学していたこともあつて、粟東インターから高速バスで彦根インターまで通勤されていた先生を送り迎えするのと、飲み会や合コンのアレンジをすることでした。当然ながら先生とは親しくなり、しょっちゅう飲みに連れて行って貰いました。

また、四回生の夏休みには、吉田先生が十九日間の英国ホームステイ・ツアーを企画され、先生の引率で、初めての海外生活を体験しました。後でお話しますが、この経験が私の人生にとって大きなチャンスをもたらすことになりました。こうして

吉田先生には、並々ならぬお世話になりました。先生はUCL Aで博士号を取られていて英語もペラペラ。実は私の理想とする先生だったんです。

——卒論は？

上林 卒論のテーマは、「MIS」を選びました。これは米国の経営手法を採り入れるもので、当時はこの言葉が大流行し、

滋賀大学では、私のゼミの先生でもある吉田教授が初めて教鞭を執られた分野でした。四回生最後の後期試験で猛勉強したことが祟って風邪を引き、卒論提出期限三日程前に四〇度近い熱を出し、完全にダウンしてしまいました。ほうほうの体で、やっと完成した卒論を大学に届け

に行ったのですが、吉田先生が研究室から降りて来て、玄関で今か今かと待っていて下さり、無事提出したのが、締め切り時間の「一分前」という有様でした。

●憧れの海外勤務に向けて

——どうして証券会社を就職先

に選ばれたのですか？

上林 先程申し上げました通り英語は好きで、是非商社に入りたいと考えていたのですが、当時は第二次オイルショックの後遺症が根強く残っており、商社はほぼ全社が新卒の採用をゼロとした年でした。そこで、海外で仕事をするには何処を受けたら良いかを真剣に考え、①都銀

②証券(当時海外現法の数を増やしていた) ③大手メーカー

の三つに絞りました。先ず銀行の面接があつたのですが、最初に受けた銀行から、

「上林君、君は銀行向きではないよ」とはつきり告げられたのです。また、当時入り浸っていた喫茶店のマスターが大金持ちで株を運用していたんですね。株が大好きな彼から株の話の常

に聞かされ、そのマスターが言うわけですよ。「上林君、これからは証券会社だよ。絶対面白



選びました。

——証券会社に入られてからは、どのような経験をされましたか？

上林 とにかく「海外駐在生活」の事しか頭にありませんでした。当時百六十四人の大卒入社

がいて、ほぼ全員が営業に配属されました。当時の証券会社は「セブナイレブン」と言って、

朝七時に会社に出社し、夜十一時に会社を出るなんてことは当たり前前とされていた時代です。

私は、兵庫県の尼崎支店に配属され、私の証券営業マン人生がスタート致しました。当時は会社

の名前を略して「勧角」とか「マルカ」とか呼ばれていたのですが、この勧角では、年間四人を海外に派遣しておりました。

一人が「海外業務トレイニー」でした。毎年十一月に試験が行われ、十二月に結果が発表されて

いました。入社三年目以上の社員が試験を受けることが出来、当時の選抜基準は、営業成績がトップクラスであることと

「日本勧業角丸証券」(現在ほど

「みずほ証券」に狙いを定め、どちらからも同時に即日

うと決心しておりました。その位の意気込みで頑張っても成果が出ないようなら、自分は証券会社ではやっていけないのではないかと考えたのです。

では、どうしたら営業成績で

トップクラスに入れるか、という事を真剣に考え、私が出した結論は、最初の二年間は全ての

休日を自主的に返上して、全て営業に充てるというものでした。今でもそうですが、残業は

就業規則で禁じられておりま

す。しかも休日出勤を上司が命

じることは厳禁されておりました。そこで、私は自分自身の自

主的な意志で土日も仕事をする

ことに決めました。これなら、誰からも文句を言われません。ライバルが五日働いているのに

と二十三〜四歳の若い時であつたからこそ、そんな事が出来たのだと考えております。

——ということは見事、営業成績を挙げて海外へ行くことが出来たのですか？

上林 先程三年目の社員からと申しましたが、入社二年目の夏、「海外留学生・海外トレイニー

選抜要綱」が回覧で回って来ました。それで、人事部に問い合わせ

してみると二年目の社員が試験を受けても構わないというこ

とで、早速支店長に推薦を戴きたいとお願いを致しました。

支店長も、(前例がなかった)ので、まさか入社二年目の社員

が受かる訳がない、冷やかしの過ぎないだろうということで、「快諾」してくれました。

こうして私は、「海外留学生選抜試験」を受験しました。四十〜五十人が一般常識、経済、英語のペーパーテストを受け、その内四人が上京して本社で「常務面接」(最終面接)を受けたのですが、「営業成績」の足切りラインはクリアしていた

が応接室に入ると、五人の常務取締役が座っておられました。矢継ぎ早に質問攻めに合い、それなりに答えていたのですが、突然一人の常務が、「ところで上林君、英語はどの程度出来るの？」と質問されました。私は、「待つてました」とばかりに、学生時代はESSに所属し、他の大学のESSクラブを訪れては、英語でディベートをしていたこと(実は相当下手で、しかもサボりがちでしたが)、更に大学四年の時に英国の語学学校で勉強して来たことを告げ、「自信があります。何なら今この瞬間から、全ての遣り取りを英語で行って戴いても結構ですが」と切り出しました。常務の



一人は国際本部長でしたので、英語はお手のものです。ところが他の常務が英語を話せる訳がありません。一瞬にしてその場の雰囲気がいまいち肌で感じ取った私は、心の中で密かに「勝った」と叫んだのでした。結果は一週間後に出て、私が見事栄冠を射止めることが出来ました。当時の証券会社は、海外でも物怖じせずに営業が出来る人間を求めていました。その時以来、一貫して私の座右の銘は、「男の人生は度胸とハツタリ」です。それから、「人事部付海外留学生」という辞令を頂戴し、本社で米国の大学に行く準備を始めたまでは良かったのですが、米国の大学で一年間語学Ⅱ英語を学ぶと思っていた私は、とんでも無い勘違いをしていることに、やがて気が付きました。それは、大学での「語学」の勉強ではなく、「MBAコース」だったのです。今でこそMBAという言葉は誰でも知っていますが、当時は知っている人は皆無に近い状況でした。GMATやらTOEFLやら聞いたこともないような試験を受け、やっとの思いでUSC（南カリフォルニア大学）のビジネススクールに合格しました。

MBAを一年で取得出来るプログラムをスタートしたのは良かったのですが、そこでは「地獄の日々」が待ち受けておりまして。大学の時ろくすっぽ勉強をしていなかった私は、そこで大きな代償を求められました。原文Ⅱ英語でサミュエルソンの「経済学」や「マクロエコノミクス」を一日で四十ページ宛読まなければ、最初の一番簡単な授業にも追いつけません。慌てて日本から日本語のテキストを取り寄せ、日本語と英文を交互に読みこなす「悪戦苦闘の日々」がスタートしました。多分大学四年間で勉強した量の数倍を、一年間で勉強したのではないでしょう。また、GPAという、日本では経験したことのないような過酷なシステムにも散々悩まされました。確かUSCでのクリアしなければならぬGPAは二・八六くらいだったと思いますが、例えばある科目でC-を取ってしまったら、他の科目でA+を取って挽回するしかない。途中でGPAが最低ラインの二・八六を割り込んでしまえばその瞬間、退学が確定するといふ世にも恐ろしい成績システムという訳です。よく日本の学生は勉強をしないなどと言われる

ますが、学生に勉強させるのはやさしいことです。米国のこの地獄のシステムを導入すれば良いだけなのです。アメリカ人ですら通常十九ヶ月掛かるMBAプログラム（五十六単位）を一年で終えるのですから、本当にハードな日々でした。週に一、二度徹夜をするなんぞは当たり前でした。

●海外赴任での経験は自分の財産
——留学を終えられてからはどうされましたか？
上林 すぐにロンドン現地法人に赴任することが決まりました。ロンドンに七年半駐在した後、三十三歳で課長に昇進して東京で二年、その後シンガポールの現法に二年（副社長）、ジュネーブの現法に二年（副社長）ですから、合計約十三年半海外で過ごしたことになります。

証券会社各社もロンドン現法には力を入れていて、競争相手の担当者は殆どがMBAホルダーでした。MBAを持っていて「当たり前」で、やっと同じ土俵に乗れるといった感じでした。ロンドンでの赴任が最も長かったこともあり、今でもロンドンでの日々は鮮明に記憶に残っております。中でも、エリザベス皇太后と謁見するチャンスを得たり、顧客からはヘリコプターによる送迎付きでロイヤルアスコット競馬場に何度も招待されたりという、唯一無二のお金では決して買う事が出来ないような経験が出来たことは何物にも代え難い自分自身の財産であると考えております。

三十九歳の時、ジュネーブから帰ってからはエクイティトレーディング部のグループ長（部長職）、シンクタンクの「勸角総合研究所」の証券調査部長を務めました。一九九八年の十二月末で証券会社を退職することを決めました。

理由は、当時既に現在の「みずほ銀行」「みずほ証券」への再編成の予兆があり、当時第一勧業銀行の実質的な子会社であった勸角の部長職以上の役職は、第一勧業銀行からの横滑



Heart Tree

ハートツリー株式会社

業務内容

- ・和楽器演奏家の派遣。
- ・映画「うみやまあひだ」のプロデュース。
- ・環境に優しい企業ノベルティの販売。

お気軽にご連絡ください。

代表取締役 服部 進 (大37回)

〒106-0046 東京都港区元麻布3-10-4 Re-Flat 303
 TEL : 03-6804-2545 FAX : 03-6893-3344
 ホームページ <http://heart-tree.com/> メール : info@heart-tree.com

り・天下りによって全て置き換
わることを見つけたからでし
た。

——証券会社を退職された後
は？

上林 勸角証券の四年先輩がア
リコジャパンのマネージャー
(支店長、支社長に相当)を務
めておりましたので、その先輩
の勧めでマネージャー候補とし



てアリコジャパンに入社致しま
した。

現在のメットライフ、当時の
アリコジャパンが証券会社出身
のマネージャーを積極的に採用
しておりました。グローバル型
の投信の保険版とも言える「変
額個人年金保険」の販売に力を
入れ出した時で、証券のバック
グラウンドを持った人材の拡充

を図っている時でした。

保険の仕事自体の重要性と面
白さを感じ出し、自分が雇われ
の身で仕事をするのではなく、
会社を設立することを考えるよ
うになりました。多数の保険会
社を同時に取扱うと同時に損保
も取扱い(総合プロ代理店)、
更に「経営コンサルティング」
と「M&A」や「食」に纏わる
仕事、サプリー等の販売も出来る
「総合コンサルティング」の会
社設立を考えるようになり、三
年半ほどでアリコジャパンを退
社しました。そうして設立した
のが、今の「ベスト・ソリュー
ション株式会社」です。現在は、
自分の好きなことだけを仕事に
することが出来る喜びを日々満
喫しております。

●年代を超えたつながりを

——最後に、これから社会人と
なる現役の滋賀大生、若手の陵
水会会員に対するメッセージを
いただけませんか？

上林 東京滋賀県人会の常務理
事も拝命しております、若い
人々と交流する機会も多いので
すが、最近の若い方は年配層と
は一線を画し、二十代は二十代
同士で三十代は三十代同士で交
流会や飲み会を頻繁に開催する

傾向が見受けられます。ある意
味では我々も若い時はそうであ
ったかも知れませんが、特にS
NSが発達した今はそういった
傾向が強まっているのではない
かと思えます。私もそういった
横のつながりも大切だとは思
います。時には息抜きも必要で
しょうし否定はしません。ただ
一言いうなら「非常に勿体な
い」。二十代同士で集まっても
手に入る情報は限られています
し、各自の苦労話を自慢しても
何の解決にもなりません。

でもOBを見回してみると上
場会社の役員がたくさんいるわ
けです。支部総会に来てみれば
五十〜六十代の経験者の話をじ
つくり聞くチャンスがあるし、
その方たちから誰か紹介してく
れるかもしれない。その方たち
が紹介してくれる方というのは
役員や社長ばかりです。それな
りに勝手に門戸を自分で閉ざし
ている。

日本の金融資産の約七割を六
十歳以上が保有しています。負
債を加味した純金融資産でみる
と更に数値が大きくなります。
また、東京商工リサーチの調べ
によると、全国の企業二百九十
八万社の社長の平均年齢が六十
一歳(二〇一六年)、更に役員

はというと五十〜六十代が大半
を占めています。つまり日本の
年収の高い層はごく一部のIT
企業の社長等を除けば、五十歳
以上の人のところに集中してい
る訳です。この大きなマーケット
をみすみす見過ごす手はあり
ません。金融商品を買える層、
レクサス・ベンツ等の高級車、
高級マンション等をキャッシュ
で買えるのも殆どがこの層であ
り、或いはこの世代の医師等の
高額所得者である訳です。

実際私が尼崎支店で営業を始
めた時も、毎日のようにバスで
高級住宅街である「武庫之荘」
に通い詰め、塚口近辺の会社の
社長数人と武庫之荘の開業医六
人を一年程で新規開拓する事に
成功しました。皆さん六十歳以
上でした。他には尼崎市内の会
社、商店街の社長、大阪船場の
社長等の新規開拓に成功した結
果、営業成績でトップ三に入る
ことが出来た訳です。

一つの世も名刺交換を目的と
した「交流会」が盛んに行われ
ておりますが、私はそういった
名刺交換会へのお誘いは、殆ど
全て無視しております。単に一
度名刺を交換してそれっきり、
後で顔も思い出すことが出来な
いというケースが殆どだからで

はと

相続税対策・申告、贈与税申告のご相談は

税理士法人ファースト会計事務所

法人税・所得税(確定申告)・相続税・贈与税

〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-15-401

電話:03-3766-5081 Fax:03-3765-1036 HP:<http://www.tax1st.jp/>



代表社員: 公認会計士・税理士 **松澤 進** 大学38回・平成2年卒
ウインド+フィン部第6代主将 会計士同好会昭和63年度会長

寄稿

■私と陵水会そして 社会人としての十年の今

梅田 祐貴子 (大53)

す。従って若い人々には、是非地縁・人縁を大切にしてもらいたいですね。年代を超えた同窓会、クラブのOB会、或いは県人会のような組織を大いに活用して人脈の拡大を効率よく図って戴きたいと思っております。

勿論、毎年七月に開催される「陵水会東京支部総会」に出席して戴くのも、長い目で見たら大きなプラスになると考えます。意外な「大口の紹介」がそういった繋がりから生まれたりもするものです。「年代を超えた」会合から更に密度の濃い繋がりが生じるのではないかと考えます。自ら率先して会に参加したり、会合のお手伝いをしてもらえると自分の財産となつて跳ね返つて来るのではないかと考えます。自分の年齢プラス三十歳との付き合いをどんどん広げていくと、いろんなことを経験されているOBの方と出会えるチャンスがあるわけですね。若手の皆様には是非一歩前進していただくことを御願ひ出来ればと考えております。

初めまして。五十三回卒の梅田祐貴子と申します。

卒業して十年を超えた頃、滋賀大の卒業生が集まる機会がある「懐かしい人たちと久々に会えるなあ」という軽い気持ちで参加しました。実際参加してみると、「久しぶり」でもあったのですが「新しいつながり」を見つけることができる発見の場でもありました。

私と同じ世代の卒業生のみなさまと、これからぜひ一緒に改めて新しいつながりを作っていけたらと思ひ、今回は私の自己紹介をさせていただきますと思ひます。

二年前の二〇一五年に、若手の卒業生が集まるという「NEXT RYOSUI」に誘つて頂いたことがきっかけで、東京陵水の活動に参加させて頂くことになりました。

学生時代、「陵水新聞会」で記事を書いていましたが、まさか卒業後こうしてまた関わるこ

とになるとは想像もしていなかったことです。

地元を離れ彦根に来て「新しいことをしたい」という思いでサークルに入りラクロスというスポーツを始めました。リーグ戦に向けて頑張った仲間たちは、今でも「女子会仲間」です。陵水新聞会との出会いは春に行われる開学祭でした。話を聞いていたうちに、「それじゃ水曜日の編集会議で」ということになり、そこから毎週BOXに通う学生生活が始まりました。

先生に話を伺ったり、学外へ取材に行くこともあったりといろんな体験をすることができ、今思うと本当に貴重な体験だったなと感じています。

そして現在は社会人となつて十年以上が経ち中堅と言われる立場になつてきました。この十年間を振り返ってみるといろいろな変化があつたように感じます。入社した頃の頃は、同僚も一緒にお仕事をする方々も男性が多かった印象ですが、今では女性と仕事をすることが随分多くなりました。ことさら「男性だから」「女性だから」と注目されることもないくらい、当然のこととして女性の活躍する場が社会全体に多くなつてい

るように感じます。また、十年以上経つた今、新人だと思つていた私の周りにも先輩たちが増えてきました。先輩から教わりながら指示を受けて動くだけでなく、後輩に伝えて一緒に結果を作っていく、ということが最近の一番の大きな変化として実感しています。

そんな時に、NEXT RYOSUIに参加して、同世代の仲間や大先輩とお話をする機会ができたことは本当に貴重な経験でした。同世代の仲間は何より刺激になります。気合いを入れてくれるし、心強くもあります。仕事以外の場でまさか五十年近く年の離れた先輩から話を聞けることなんてなかなか難しいことです。過去の時代は、自分では体験することはできません。自分が経験してきたこともまだまだ語れるほどのものはありません。先輩方のお話は、自分が経験できなかったことから知識をたくさんいただいています。そして説得力と重みがあります。

同じ滋賀大の卒業生という共通点でこんなに新しい広がりが持てるなんてとてもうれしいことです。皆様からいただく刺激を自分自身の糧にしていきたい

と

ご宴会・ご婚礼・出張料理
カフェランランドーレ・グリルフクシマ

軒養精野

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330
<http://www.seiyoken.co.jp> 年未年始以外年中無休

カフェランランドーレ
Caféran Landaulet

GRILL
グリル フクシマ

と思います！

■マイ同志は「ヒルネスル」

中川 郁三（大5）

「声を出して読みたい日本語」の著者齊藤孝氏に、「人生は動詞で変わる」というエッセイがある。自分を活性化させスイッチオンする動詞。

八十年代半ばを生きている私が、今を有意義に過ごすにはどんな動詞が最も適切だろうか。私はこの二年間に癌で三度の入院手術を繰り返し返した。結果、自信のあった脚力は極端に落ちてしまった。脚力の回復に「まず」歩く」を考えた。さらに「元気な一日の幕を開けるために」「ストレッチをする」「声を出す」「読む」等々いろいろな動詞が思い浮かぶ。学生時に競って読む小説などは人格形成に欠かせない。その乱読期を私は愚かにもやり過ぎ、大事な基礎教養を欠いてしまったのである。それが絶えず頭の片隅で劣等感として私を悩ませる。再挑戦を試みようとするが、まず頭脳が覚醒していることが必須条件である。

それに関し私には大きな弱点がある。会社現役時代から今に至るまで常に悩ませれてきた「眠気」である。特に体を動か

さない読書や創作などには大きな妨げとなる。たびたび襲ってくる睡魔を撃退し覚醒を得るには夜間の熟睡が大事だが、それだけでは日中を通して十分とは言えない体質なのである。

会社現役時も絶えず睡眠不足状態。時折執務室で少し仮眠すると寝る前まで目をつぶる。やさしい室付きの女子社員がそつとドアを閉め、外からのコンタクトに対応してくれる。医師に相談して睡眠剤も幾度か試みたが、続けると翌日の昼間に猛烈な睡魔が襲う。かえって睡眠障害を助長するようなものだ。

定年後もその傾向は変わらない。寝付けない時の寝酒はかえって睡眠を妨げるといえるが、睡眠剤よりはるかにいい。中でも私にはブランドデーが最適である。あの妙な香りは脳を癒してくる。静かな曲を、二楽章聞けばさらに良い。ビールやハイボールより量が少ないのでトイレに通わなくてよい。昔はブランドデーは高価であった。海外に行ったときなど免税範囲の三本を越えて、飲まない人の分を借りてまで買ってきたものは格段に下がって手が届く。

夜は睡眠だけで足りない私に

は昼間襲ってくる睡魔はその都度退治するに限る。時間の長短に問わず仮眠をとる。ベッドや書斎の椅子はもちろん電車の座席も格好の場所。たとえ二、三分でもその中で一瞬くつと眠った感覚を得れば効果はてきめん。今は誰にも文句をいわれる筋合いはないし怠惰の罪悪感もない。

少しの仮眠で覚醒すれば輝く時間が拡がり生活の質を上げてくれる。我慢せず、眠気を感じたらいつでも何度でも、午前中でも夕方でもよい。午後の三時過ぎに寝ると夜眠れないといわれるが、私にはあてはまらない。

私には、早くやっておかねばと思いつつ日が過ぎていく宿題がいくつもある。身辺整理、申し送りノートの作成。これらはやっておかないと残った家族が困るのが目に見えている。詠み残している本もまだまだ多い。句作の吟行にももつと行きたい。眠い眠いと手をこまねいているわけにはいかなないのである。余生の活力の源泉は昼寝にあり。怠け者然と気ままに昼寝をして過ごすことにしよう。

夜は睡眠だけで足りない私に

■東京陵水ゴルフ会幹事役

十五年を振り返って

山本 保（大15）

川本支部長時代、箸方先輩などの発案により平成二年三月十日の発案により平成二年三月十日第一回東京陵水会ゴルフコンペが十二名の参加で行われて以来、二十七年間年四回開催で、今年の十二月十三日に第一〇回を迎えることとなりました。

私が初めて参加したのは平成十五年四月開催の第五十三回大会でした。多分一番若輩者で緊張しながら参加していたかと思えます。次の第五十四回大会でハンデに恵まれ初優勝し幹事役をいたしました。幹事をして

みてそれまでの幹事に方々は往復はがきや案内を印刷屋で印刷しているとか色々大変である事を知り、幸い私はパソコンもあり、印刷もできましたので、先輩方のご苦勞を考えると簡単に案内なども出せますよということ、次の第五十五回宇治原先輩の幹事を代行することになった次第です。

それ以来十五年間五十五回の幹事代行を務めさせて頂いておられます。幹事代行を始めたころは先輩の皆様方に叱咤激励されながら、近年は後輩の方々にご支援とご協力を賜り何とか伝統

あるゴルフ会を続けてこられたことを感謝いたします。

★ゴルフ会と東京陵水会総会

歴代支部長・幹事長の方々がゴルフ会に力を入れて取り組んでこられた事もあり、また、年四回のコンペ後のパーティーで総会の案内もするなどの成果もあり、一時は総会参加者の六割近くを占める事もありました。最近もゴルフには参加されなくなった元会員の方も含めると毎回五十名近い方が総会に出席いただくななど、東京陵水会の大きな勢力として貢献できてきたかと思えます。

★データ

- ① 参加者の人数推移…平成二年第一回十二名。平成五年第十回に二十名台、平成十年第三十六回に三十名台、平成十九年第六十九回に四十名台と順調に参加者が増えてきました。平成十九年第七十回記念大会の四十五名が最高の増加者です。
- ② 優勝回数…井口博民（本21回）と箸方海三（大4回）が七回。井口さんは第八回大会七十五歳で初優勝、第百二回大会では八十九歳十一月で七回目の優勝を遂げられました。（18ページ写真）

- ③ 記念大会と支部長杯取り切



第60回記念コンペ

り戦…私が幹事代行をして以降十回ごとに記念大会を実施して来ました。また、歴代支部長には支部長杯を寄贈頂いており、取り切り戦を実施しています。

◎記念大会優勝者…第六十回 島康夫(大4)・第七十回 中西三十一(大5)・第八十回 井口博民・第九十回 川崎健夫(大17回)・第百回 富田博司・第百十回は？



★雑感と後継者へのパトタッチ
私の同期では『八十才まで金乃台でゴルフを』を合言葉に年二回コンペをしています。これまで三組成立していたのがこの一年で一挙に一組になってしまいました。十五年幹事代行をしてきて感じたことは、カートなし歩きで十八ホール回る体力は七十五歳前後が大きな一つの山であるということです。七十五歳前後を境に本人の体調や家族の健康等を理由に参加できなくなる方が多かつたということです。この山を越えて参加する方は大半が八十歳を超えても

◎取り切り戦…小池杯…北川享(大4回)・宇治原杯…田村寿夫(大12回)・西坂杯…山本保(大15回)・守谷杯…中岡浩三(大23回)・小楳杯…山本保(大15回)参加者の年齢推移…この十五年間を振り返ってみますと私が幹事役を務め始めた十五年前平成十四年の第五十五回は、彦根高商卒…五名、大学一回…九回卒…二十名、十回卒以降…十三名でした。平成二十九年の第七回では高商卒…一名、大学一回…九回…五名、大学十…十九回…二十一回…大学二十回以降…五名と順調に次の年代へと引き継がれてきています。

OB会
会長 山崎 一泰(大22)
学生時代グリーククラブは、文系クラブの中では、部員数も多く、活動も活発だったように記憶しています。

残念なのは、平成に入り全国的に男声合唱団が徐々に少なくなつて来た頃に、「滋賀大学経済学部グリーククラブ」そのものがなくなったことです。時代の流れかもしれません。



第100回記念大会

歩きのゴルフが出来ています。私も来年に七十五歳になります。来年には幹事代行を後継者にパトタッチし、東京陵水ゴルフ会が継続発展していくことを希っています。

OB会
現在東京地区には約五十名がおられ、現在も口コミでOBの情報を集めています。メンバーの中には、東京地区にある一般の合唱団に参加されている方もおられます。

活動は、年一回の懇親会(新年会)、陵水会東京支部総会での学歌の演奏が中心です。総会への出演にあたっては、なかんずか事前練習会を行っています。練習もさることながら、練習後の飲み会をたのしみにしていくメンバーも多く、卒業年次を超え学生時代の話に花が咲きます。

平成二十四年、その年の陵水会東京支部総会の当番幹事の一人であった湧川勝巳さん(大24)を中心に、東京地区に居るグリーククラブのOBが集まることが出来たらと、忘年会を開催したことがきっかけで、東京地区のOB会としてスタートしました。初代会長は吉田弘さん(大9)。

東京地区においては、在職中の若手の方のほうが多いので、仕事優先にならざるをえないのですが、リタイア後の楽しみとして、又健康維持のため、気心の知れた仲間と一緒に楽しめる男性合奏は格好の「遊び」だと思われます。

今後、さらに多くのメンバーが参加され、東京地区でミニコンサートでもできるようになればと考えています。



平成29年新年会

東京での練習会、名古屋での練習会など本番までには多くの時間もかかりますが、小人数では味わえない合唱の楽しさを体感することができるので、一度参加すると、次回もという気持ちになります。

同好会 通信

東京陵水ゴルフ会

(第一〇六回〜第一〇九回)

《開催の主な内容》

《新規参加大歓迎!》

開催時期…年四回、(四月・六月・九月・十二月に開催)

開催場所…金乃台カントリークラブ (カートなし)

順位決定…同ネットの場合、高年齢者↓ローハンドの順とする

ハンディキャップ…10回ごとにハンデ改定を実施、上限40、85歳以上+9、80歳+6、75歳以上+3する。

【新規参加希望の皆様へ、新規会員大歓迎!】

氏名・住所・☎番号・生年月日・卒業回・所属ゼミ・部活・ハンディキャップを下記メールアドレスにご連絡下さい。Xの次にアンダーバーがあります。

山本 保

yattax_888@com.zaq.ne.jp

第一一〇回記念大会を十二月十三日に小梶杯取り切り戦も兼ねて開催、また、第一一一回大会を平成三十年四月二十四日

(火)に開催しますので、ご参加をお待ちしています!

この一年間も金乃台カントリークラブで、好天の下、熱戦が繰り広げられました。

この一年間は、ベテラン・中堅・若手と各年代の選手が複数回目の優勝をされました。

また、四名の若手新規の参加者がありました。

各回の戦績・優勝者はじめ飛賞も含めた賞金獲得者名は下記の通りです。

第一〇六回大会 (大9回 西坂徹雄選手、六年ぶり二回目の優勝)

平成28年12月13日 6組20名

成績 (賞金獲得者) (卒年)

優勝…西坂徹雄(大9) 72(26)

準優勝…竹森二郎(大19) 73(9)

三位…小梶清司(大18) 75(13)

四位…島山義生(大10) 76(19)

五位…松浦幸作(大8) 77(27)

六位…金井 肇(大14) 77(10)

七位…田川行雄(大9) 79(9)

八位…井口博民(本21) 90(24)

十六位…山本 保(大15) 94(27)

BB賞…竹森(大18) 82

ベスグロ…小梶・田口

ドラ短…島山・蔵田

ニアピン…松浦・金井・兼松2

小野・田口



第一〇七回大会 (大2回 柴田茂夫選手、六回目の優勝)

平成29年4月20日 8組32名

成績 (賞金獲得者) (卒年)

優勝…柴田茂夫(大2) 72(32)

準優勝…佐藤秀孝(大10) 72(24)

三位…中尾克也(大15) 72(25)

四位…島山義生(大10) 73(19)

五位…金井 肇(大14) 74(10)

七位…川崎憲夫(大17) 74(10)

十位…松浦幸作(大8) 75(27)

十七位…中岡浩三(大23) 79(19)

二十位…小梶清司(大18) 82(11)

二十七位…西坂徹雄(大9) 88(18)



BB賞…田口良三(大23) 95(22)

ベスグロ…小野(大19) 78

ドラコン…高居・小野

ドラ短…島山・中西

ニアピン…佐藤・金井2

山本・平本・田口

第一〇八回大会 (大12回 平居俊雄選手、五年ぶり三回目の優勝)

平成29年6月13日 6組21名

成績 (賞金獲得者) (卒年)

優勝…平居俊雄(大12) 73(26)

準優勝…竹森二郎(大19) 74(7)

三位…小野孝史(大19) 74(3)

四位…川崎憲夫(大17) 77(10)

五位…小梶清司(大18) 77(11)

八位…金井 肇(大14) 78(10)

十位…能島伸夫(大22) 80(12)

十八位…山本 保(大15) 90(27)

BB賞…木戸 彪(大16) 87(34)

ベスグロ…小野(大19) 77

ドラコン…島山・川崎



ドラ短…島山・蔵田

ニアピン…竹森・小野・能島

中岡・田口

第一〇九回大会 (大23回 田口良三選手、三年ぶり二回目の優勝)

平成29年9月12日 6組21名

成績 (賞金獲得者) (卒年)

優勝…田口良三(大23) 71(22)

準優勝…川崎憲夫(大17) 76(10)

三位…伊藤博邦(大18) 77(20)

四位…能島伸夫(大22) 77(12)

五位…金井 肇(大14) 78(10)

九位…小野孝史(大19) 81(2)

十五位…中尾克也(大15) 87(22)

十九位…蔵田昭憲(大17) 93(16)

BB賞…田川行雄(大9) 95(9)

ベスグロ…小野(大19) 81

ドラコン…佐藤・田口

ドラ短…佐藤・守谷

ニアピン…兼松・竹森・小野



山本 保(大15) 記

陵水囲碁会

平成二十九年の囲碁会は下記の通り六月十七日(火)と十一月十八日(土)の二回にわたり、全国情報サービス産業厚生年金基金会館において開催されました。

陵水散歩会

●二十八年十二月二十七日(火)

「下町風情を年の瀬に巡る」

コース…鶯谷駅～子規庵跡～書道会館～入谷鬼子母神～樋口一葉記念館～目黄不動尊～回向院～圓通寺～三ノ輪駅
年末の下町は慌ただしい。晴れてはいたが冷たい空気の流れ。一葉の名作の雰囲気を探す。一葉記念館は彼女の生涯から名作全般にわたり、十分学ぶことができた。戸塚原の風景は今も何やら歴史の激しさを秘めている。参加五人

●平成二十九年六月十七日

参加者十三名

- Aグループ…
優勝 聖成崇夫 七段(大17)
準優勝 鈴木克治 八段(大14)
三位 三井照次 七段(大10)

Bグループ…

- 優勝 神崎栄次 五段(大3)
準優勝 寺沢 優 二段(大16)
三位 河田康雄 四段(大18)

●平成二十九年十一月十八日

参加者十一名

- Aグループ…
優勝 聖成崇夫 八段(大17)
準優勝 島山義生 七段(大10)
三位 鈴木克治 八段(大14)

Bグループ…

- 優勝 河田康雄 四段(大18)
準優勝 山口 晃 三級(大14)
三位 森本忠徳 五段(大9)

鈴木克治(大14) 記

楽しい。参加八人

コース…大磯駅～城山公園～旧

地～弥生美術館～不忍池～御徒

●二十九年三月二十八日(火)

「烏山寺町から井の頭公園」

コース…千歳烏山駅～烏山寺町(高源院・多聞院・妙高寺等十寺)～玉川上水沿道(牟礼橋から万助橋)～山本有三記念館～ジブリの森～井の頭公園～吉祥寺駅
馥郁とした梅の花の咲き残り香りに気が点いたり、まだ早い桜の花の点在を探し、ほっとして玉川上水のわずかな清流を覗いたり、有三記念館で「路傍の石」や「真実一路」の映画ポスターを懐かしんだり。参加十人

吉田茂邸～城山公園旧三井邸跡～大磯海岸～八坂神社～滄浪閣～東海道松並木～島崎藤村旧宅跡～鳴立つ庵～大磯港(食事)～地福寺～大磯駅
改修なった吉田茂邸、木の香も芳しく花々に囲まれた美しい環境。城山からの湘南の穏やかな、静かな潮騒の浜辺から瀟洒な藤村旧邸を覗く。大磯港の鮮魚主体の夕ご飯。夕暮れに浮かぶ藤村の菩提寺地福寺は山門から。参加七人

●二十九年二月二十八日(火)

「新宿から渋谷の寺町・昔街を歩く」

コース…新宿駅～天龍寺～玉川上水散策路～自称院～愛住町～船町の寺町～策の池～杉大門通り～須賀町の寺と神社～明治記念館～明治神宮外苑～渋谷キヤットストリート～渋谷駅
メインストリートを外れて街中に潜む寺院のこじんまりとした姿。江戸の風物詩。アニメの「聖地」で名所になった須賀神社、原宿から暗渠の上に開かれたおしゃれな店の立ち並ぶ小路。都会の知らざる街の片隅が

コース…本川越駅～喜多院～川越城址～氷川神社～菓子屋横町～時の鐘～蔵作の街並み～本川越駅
小江戸の町は桜花爛漫の時期も過ぎたが、春風のそよぎ江戸の情緒を醸し出して快い。喜多院は見ごたえのあるところ。蔵造の通りから、時の鐘に向けてガイドさんが丁寧に解説してくれた。参加八人

コース…高尾駅～宗閑寺～北条家墓所～大手門～馬場～曲輪～ご主殿跡～八王子神社～八王子城本丸～高尾駅
以上のコースを指して参加者一同高尾駅に集結したところに出で打ちげ会で締める。参加六人

●二十九年五月三十日(火)

「湘南大磯の文化と歴史・海辺の散歩」

コース…大磯駅～城山公園～旧

コース…日暮里駅～本行寺～経王寺～谷中銀座～須藤公園～森鷗外記念館～全生庵～感応寺他寺町の六寺～弥生式土器発見の地～弥生美術館～不忍池～御徒

●二十九年八月二十九日(火)

「東京名所・谷根千散歩」

コース…大磯駅～城山公園～旧

弁護士法人A I T 医療総合法律事務所

医療機関の顧問業務の他、事業承継・相続・遺言・後見を取り扱っています。ぜひお気軽にご連絡ください。



〒104-0061 東京都中央区銀座 2-8-18 グランベル銀座 702

TEL: 03-5561-6011 FAX: 03-5561-6012 メールアドレス: aoki@ait-medicallaw.jp

代表弁護士・税理士・社会保険労務士

青木 聡史 (大学45回・平成9年卒)



町駅

谷中・根岸・千駄木と網羅して歩く。夕焼けだんだん坂からの谷中銀座は手ごろな下町風景。全生庵で丁度発見されたばかりの錦木清方の題「茶を献ずるお菊さん」の幽霊画を鑑賞。弥生美術館の明治大正大口マンズ女性伝は物語にまつわる写真が多く展示され大いに楽しめた。参加八人

●二十九年九月十九日(火)

「葛飾の水辺と史跡を巡る」
コース…堀切菖蒲園駅～菖蒲七福神～堀切菖蒲園～水門橋～避難橋～四季の道～お花茶屋駅～曳舟川親水公園～郷土と天文の博物館～葛西城址～青砥神社～宝持院～お花茶屋駅經由日暮里駅

久しぶりの十キロコースでよく歩いた。葛飾の地区はなじみがないだけに新鮮である。ゼロメートル地帯にしては水路の後も暗渠になったところが多い。葛西城址がポイントの史跡。参加八人

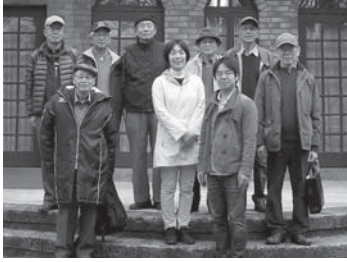
●二十九年十月三十一日(火)

「高峰高原温泉一泊紀行」
コース…第一日・新宿駅～関越道高速バス～小諸市高峰高原ランプの宿。第二日・池の平高原トレッキング(三時間)。小諸

懐古園からバスにより新宿。開催日二日も上々秋天高し。海抜二千メートルの野天風呂は八ヶ岳、蓼科山を紅の夕空に臨んで身も心も吸い込まれていく思い。ベテランガイドによる池の平トレッキングは晩秋の茶色に彩られた山岳風景をますます身近なものに誘ってくれた。参加四人

※平成二十九年の参加者
久木義雄・中川郁三(大5)、小森清美・林史欣(大8)、宮野幸雄・平居俊雄(大12)、天木國夫(大14)、吉田勇夫(大15)、渡辺雅利(大16)、脇昌之(大52)、葦止泰子(特)。

★お誘い★毎月最終火曜日が定例会です。どなたでも自由にご参加ください。申し込みはメールアドレス hyssckys@nifty.com へいつでもどうぞ。



山本有三記念館前

林 史欣(大8) 記

詩吟の会

全国合吟大会男子で一位

みなとみらい分室も開設
大卒七回の鈴木重成氏が会長
の千代田岳精会(会員三百三十名超)での陵水会員の詩吟の会は、五年の経過で総勢二十五名となりました。

月に二回から三回、西新宿や横浜、東陽町などで一日二時間、教室を開いています。
千代田岳精会(岳精流日本吟院(総会員約三千名)の傘下にありますが、会の発展に連れ、大卒九回の田川行雄さんが横浜に新しく「みなとみらい教場」を立ち上げました。地域の陵水会以外の会員も加わり、すでに十二名の安定した陣容になりました。

また会員の活躍の一例では、昨秋、東京・武道館で行われた財団法人日本吟剣詩舞振興会合吟コンクール男子の部で見事一位になりました。
練習は、西新宿の場合、原則として月三回、第一、二、四木曜日の午前十時四十分から午後二時まで。
「みなとみらい教場」は月二回、土曜日午後二時から四時までで横浜みなとみらいのMMタワー

ーズフォレシス内のサロンで行なわれています。

陵水会の会員は先号の会員も含め以下の通りです。

(卒回順 敬称略)

- 井口博民(本21) 鈴木重成(大7) 浦谷政夫(大7) 西野宏(大7) 田川行雄(大9) 西坂徹雄(大9) 藤江忠正(大9) 中川寿一(大10) 堀内和(大12) 宮野幸雄(大12) 平居俊雄(大12) 小林三郎(大13) 加藤博義(大14) 柴田豊彦(大16) 木戸彪(大16) 滋野輝彦(大17) 梶清司(大18) 西川清悟(大18) 和田博之(大19) 竹森二郎(大19) 小野孝史(大19) 青木美憲(大20) 脇坂守(大21) 能島伸夫(大22) 岩崎博之(大27)

入会ご希望の方は右記の会員または浦谷 ZAT16132@nifty.com

また、横浜地区の方は、田川 tagawa.yukio@violet-plala.or.jp

また、横浜地区の方は、田川 tagawa.yukio@violet-plala.or.jp

概要をご覧いただけます。

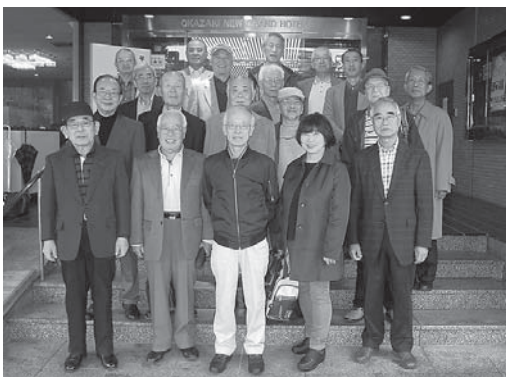
浦谷 政夫(大7) 記

同窓会 便り

第五十六回有田会開催

平成二十九年十月二十八日・二十九日に岡崎市の岡崎ニューグランドホテルに一泊して平成二十九年度(第五十六回)有田会を開催、六回卒業の市村仁氏を筆頭に十八名が参加しました。

有田会は毎回メンバーの一人が講演を行うことにしています。今回は二十回卒業の松村彰氏が自分の体験をもとに「多趣味のすすめ」と題して、「これからの人生は三方向ベクトル



(自己・地域・家庭)を程よく保って生きていこう」という趣旨の講演をしました。

懇親会では大いに語り、翌日は岡崎城を中心に家康をしのんで散策して解散しました。

今回は九月ぶりに東京が地元幹事となり平成三十年十月二十日・二十一日に開催することが決まりました。

現在の案では会場は伊豆長岡にある百%源泉かけ流しで国家公務員共済組合運営の「千歳荘」を考えています。

東京支部の会のみなさまの多数の参加を期待しています。

近藤 達也(大13) 記

東京陵水会計人会 新年会開催

東京陵水会計人会新年会を平成二十九年一月十七日、新宿西口「炙り火魚」にて開催しました。

今年の新年会は初参加の一名を加え八名が集まりました。参加者は星出潔(大13) 岡田憲治(大18) 御旅屋尚文(大24) 上田信子(大29) 久野康成(大37) 松澤進(大38) 笠浪真(大48) 百済歩(大57)の皆様です。

高木早苗(本24) 稲野辺敬義(大19) 長井和夫(大22) 深田

睦子(大26) 北尾聡子(大45) 木村繁(大46) 稲葉隆博(大48)の皆様は残念ながらご都合により参加できませんでした。

今年も久野さんから自作の日めくりカレンダー「The Daily Kumo 2017」365日「有給休暇」

を東京陵水会計人会に贈呈していただきました。

毎朝、和文と英文による

Insight and Motivationを楽しみにしています。

公認会計士事務所長、税理士事務所長、社外監査役、団体監事等の皆様から近況報告と共に貴重な話が聞け、今年も有意義で楽しく美味しい充実した新年会でした。

岡田 憲治(大18) 記

同期会レポート 大学八期同期会

(三五会)

平成二十七年十月、彦根にて開催のあと一年余り置いて同期会を開催した。前回まで三年お

きの開会であったが、今回では同期生全員が八十歳を迎えることもあり其処に意義を持たせての開会でもあった。

十一月十日(金)。今回は幹事を大阪地区が担当。会場は彦

根市グランドデュークホテル。集合十一時三十分。開会十二時から出席者三十八名が時間通りの顔合わせになった。亡くなった同期生が三十八名との報告ある。

司会は赤田堅君が担当、物故者への黙禱をささげる。開会挨拶は同期会では毎回のお努めを担当している門野久義君に願う。

同期会特別講演をデータサイエンス学部の副学部長高田聖治教授にお願いした。テーマを「滋賀大学データサイエンス学部の創設とその挑戦」として、同学部の規模、今後の学部学生の就職などを含めた見直し、そして

前学長の佐和隆光教授の学部開設に当たったの大きなご尽力などに触れた。約十五分にわたる興味ある講演だった。聴講者から産学協同の在り方、進め方を産業界と一体となってどう進めていくかなどの意見陳述などがあつた。

続いて懇親会に入り、赤田君が司会を引き続き担当、乾杯を九州から参加の柳川昌弘君が音頭をとった。講演をいただいた高田教授も、それぞれのテーマを巡って、親しくお話の機会を作っていたいただいた。懇談も歌

などを交えて、全体に和気あいあいの明るい雰囲気にも包まれた良い会合であつた。

今後の同期会開催について、名古屋での開催を二年くらい以後に開催の方向で、名古屋地域幹事での開催を呼びかけをした。いと協田佳男君からの提案があり、次回に期待することになった。

再開の日には元気な顔を再び持ち寄ろうと声をかけつつ午後三時半過ぎの閉会となった。

林 史欣(大8) 記



金乃台カントリークラブ

支配人 足立原 孝文

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

ホームページ <http://www.kinnodai.com>

“すべてのプレーヤーが楽しめるゴルフ場”

『今年も皆様のご来場をお待ちしております』

彦根キャンパスの今

平成二十九年十一月五日、データサイエンス学部生のインタビュー（本誌六頁～十頁）を午後控え、午前中に彦根駅に到着、インタビュアーまでには時間があつたことから、その足で約十四年振りに滋賀大学のキャンパスに足を踏み入れることとした。

因らずもこの日は、第五十一回滋大祭の二日目ということもあり、構内は学生、近隣の住民で賑わっていた。学祭当日の賑わいは相変わらずであったが、構内建物の端々に変化が見取れたので、その一部を紹介したい。

① 総合研究棟（士魂商才館）
正門を通り、今も変わらず荘厳な雰囲気を残す講堂脇を抜け、校舎棟に着くまでは、十四年前と同じ見慣れた風景であったが、ふと図書館の方を見ると、見慣れない建物が目に入った。かつて、図書館の正面玄関向かいにあった芝生のスペースには、現在、総合研究棟（士魂商才館）が建っている。

滋賀大学の広報誌である「しがだい」第四十一号によれば、

本館は平成二十六年五月竣工、総床面積千九百六十㎡、コンクリート三階建てのこと。この建物には、経済経営研究所及びリスク研究センターが移転するとともに、図書館書庫や史料館の収蔵庫また大・中・小のセミナー室が設けられており、セミナーや講演で利用されていることである。

また、一階には、「しがだい資料展示コーナー」が設けられ、旧彦根高等商業学校以来の滋賀大学の歩みなどの展示がされているように、昨年八月には、彦根高等商業学校（大正十二年～昭和十九年）の話題が載った新聞を紹介した企画展「しんぶんし」原紙にみる彦根高商報道」が催された。

構内の施設は様変わりしている部分も多いが、資料に残るかつての滋賀大学を思い出せる施設として、機会があれば一度、訪れてみてはいかがだろうか。

② データサイエンス棟
滋賀大学にデータサイエンス学部が誕生したことはご承知のとおりであるが、データサイエンス棟なる施設があることはご存じだろうか。

教官の研究室が並ぶ研究棟と第二校舎棟（我々が在学中は「フ

ァイナンス棟」と呼ばれていた。）の間にある細長い建物である。

建物自体は我々の在学中から存在し、経済学部の教官の研究室やゼミに利用する演習室があったが、現在は、演習室と共にデータサイエンスラーニングコマンドと呼ばれる学生の自主的な学習を支援スペースが設けられている模様。

学生の話では、たまに感情認識ヒューマノイドロボットのPepper（ペッパー）君がいるとかいらないとか。

③ 研究棟
そのデータサイエンス棟と図書館の間にある研究棟に入るとすると出入口が自動ドアになっていた。よく見ると内装も新しくきれいになり、白と黒を基調としたおしゃれな配色になっている。よく見ると段差もなくなっている。トイレもバリアフリー化されており、そのまま図書館方面に歩くと茜色に塗られた柱とガラス張りの会議スペースやカフェスペースになっている。近くの学生に話を聞いてみると、今年度四月頃に工事が終わり、このスペースを使ってみ

ミをしたりしているとのこと。太陽光発電システムの発電電力

量などの表示板もあり、昔の滋賀大学しか知らない私にとつては違和感半端ない空間となっているが、渡り廊下を通って学務課の方に移動すると、障害学生支援室が設置されていて、障害のある学生が、他の学生と等しく教育を受ける権利が保障されるよう、具体的方策を検討及び実施をしているとのこと。

④ 彦根駅行き直行バス乗り場
かつて、滋賀大学の正門前にはバス停があつたと記憶しているが、路線バスの一停留所ということで、学生向けの時刻設定にはなっておらず、自宅通学生

のほとんどは彦根駅前の駐輪場から自転車通学していた。近いようで遠い大学までの道のりは真夏・真冬の時期や雨の日には苦労させられた。

しかし、平成十八年四月十日から、彦根キャンパスと彦根駅間で直行バスが運行されており、経済学部付属資料館前にバス停が設けられている。運行時間も八時五分の彦根駅発から二時十五分の彦根駅発から四時十分の彦根駅発まで、八時台は一時間に四便、昼間時間帯でも一時間に二便程度が運行されており、利便性の高いダイヤとなっている。

また、この直行バスには、平

成二十年から廃棄物として処理されている学生食堂の廃食油を回収・精製したバイオディーゼルを燃料に走行するバスが導入されていること、大学のイメージ向上にもつながっている。

⑤ 講堂・陵水会館
ここまで、滋賀大学構内の変化について取り上げてきたが、この二つの建物については、当時から変わらず残されている。これらの建築物は、彦根高商から続く滋賀大学経済学部の歴史として今後も大切に保存されていくであろう。

ただ、残念なことに、講堂については、耐震診断を行ったところ、建物の耐震性能が基準より著しく劣っていることが判明したため、立ち入りが禁止されているとのこと。大学当局としては、耐震改修工事のための予算を確保し、利用の再開を目指す意向のようであるが、講堂は建築後九十年以上が経過しており、予算面・技術面を踏まえると紆余曲折が予想される。OB・OGとしても滋賀大学経済学部のシンボルである講堂の一日も早い利用の再開を応援したい。

卒業してから十四年後のキャン

ンパスを歩いてみたが、データサイエンス学部の新設も含めて学内は変化していた。その内容としては、学生の学習支援の場の提供や直行バスの運行など、些細なものもあるかもしれないが、その背景には滋賀大学のブランドを維持・向上させようという大学側の理念が伺える。

平成十六年から国立大学は「国立大学法人」となり、それぞれの台所事情は必ずしも豊かではないと聞く。その中で滋賀大学経済学部として、残すべきは残し、変えるべきは変えるという滋賀大学経済学部の決意が読み取ることができた。

今後の滋賀大学経済学部の進化を応援したい。

岡村 和哉(大51)
脇 昌之(大51) 記



研究棟(ミーティング室)



研究棟(入口)



研究棟(廊下)



研究棟(裏口)



研究棟(カフェスペース)

東京陵水文芸

俳句

加藤 博善(大14)

運動会私ビリよと孫えがお

博善

十月の休日遊びに来た小二の孫娘に「運動会どうだった」と聞くと「徒競走は私ビリだった」と屈託なく笑って答えた。勝てなくても楽しそうな孫に教えられました。

江ノ電や錦秋車体決走る

博善

鎌倉高校前を通る江ノ電沿いの海岸通りを歩いていたら、側を通った江ノ電の車両のうち一輛に、紅葉と黄色の木々を描いた車両を見つけました。「浜で秋 見つけた」

雨戸下り葎の栖海の家

博善

朝の散歩の腰越の海岸沿いの道に並ぶ海の家の一軒に目がとまり、見ると雨戸が下り錆びており、壁一面には、つる草類(葎)が我が家のごとく覆い、まるで

葎の栖の様でした。

能島 伸夫(大22)

春服にくらしの匂ひ娘くる

伸夫

子育てに忙しくしている娘が、体調を崩していた小生をひよっこりと自宅へ見舞いに来てくれました。

明け易し大漁に沸く漁り船

伸夫

原発の影響で漁業ができないでいた石巻。ある日解禁で久しぶりで大漁となった未明の朝の状況。

秋うららかながふるる孫のふみ

伸夫

小学校一年生の孫から敬老の日にカードをもらいました。

吟仲間飲み干す熱爛李白かな

伸夫

陵水会東京支部の面々が中心の詩吟教室が終わり、都度昼食懇談会にはいつもお酒が注文され乾杯す。

短歌

「琵琶湖に遊ぶ」

浦谷 政夫(大7)

所属結社誌「長風」への最近の掲載作品(平成二十九年十月)ことしまた琵琶湖を見たさに帰りにたり田舎の祭りを兼ねての初夏に

一番に墓参りをとたづぬれば生花のすてに供へてありぬ

琵琶湖をば墓地よりはつか望みたり比叡に雪なし比良に雪あり

生家にてさいはひ鯖寿司食したり鯖街道を経たる鯖なる

なるに釣るや朝まだきより浮かびたる すなごり舟にをのこのふたり

沖島を沖ノ島と呼びぬる琵琶湖三島のそのひとつ見ゆ

多景島は彦根よりみてまぢかなり人の住まねどその名のよけれ

つね聴くに琵琶湖哀歌と周航の歌詞と曲との似たる二つは

夕の日の湖のあなた山に入るあかき日あしを波にうつして

この日ごろ入り日を直に見ざればや ひかりの腹に落ちる気

のせし

富士山の出でこしときに琵琶湖なるうみあらはれて今にいた

ると

富士山の余れる土の三上山やま 生あ

れて神々し近江富士なり

三上山を七巡り半せし百足をば

退治したるは俵藤太

百足をば唐橋よりか射落とせば

琵琶湖はあかく血に染まりけ

む

朝なさな御神山まに向かひて駅ま

てを自転車漕ぎし二十歳の青春

埼玉の大井宿には三上姓あまた

のありて近江の出といふ

「雑詠十首」

林 史欣 (大8)

はらからの寄りて亡父の周年忌

仕ぐさ言いくさ真似して儂ぶ

この身から信州の血が抜けてい

く 本籍移転届け出の朝

若きより通い馴染みし老舗街

歯抜けのあとにビルの無愛想

早朝の鎮守詣での道すがら

杖突く老婆の常の目礼

始発駅終着駅までのどかなり

乗り降り二人コミュニティエパス

街中に道拡張は有り難し

歩道はマイルに百日紅の花

信濃には遅き春ほど好ましき

梅と桜と杏の競艶

在京のふるさと人の集まりに

交わす訛りの懐かしきかな

「ガンなんだ」病を告げる女の

声 やけに明るく返すに暗し

頑として携帯持たぬ友逝きぬ

デジタル反逆常に語りし

漢詩

「深夜偶成」

【庚】韻 平起式

木戸 彪 (大16)

寒飄策策振枝聲

寒飄策策 枝振わすの聲

雪片霏霏眠未成

雪片霏霏 眠未成

凭几憶君千里外

几に凭りて 君を憶ふ 千里

の外の 青燈陋屋曉鐘驚

青燈の 陋屋 曉鐘に驚く

【意解】

あばら屋の外は寒風が吹きす

さび、木の葉の落ちる音やら枝

を振るわす音が部屋の中において

も聞こえてくる。そうこうする

うちに雪がチラついてきた。ま

た冬の到来か 嗚呼！

そんなことを考えているとつ

いつい眠れなくなってしまう、

長椅子に凭れて遠方にいる君を

思っている。病気がちな君のこ

とをあれこれ思っているうち、

遂に夜明けを告げる鐘の音に驚

かされたのだった。明かり一個

の部屋で夜の明けたのも気がつ

かなかったとは。

「高野山奥院」

【先】韻 平起式

柴田 豊彦 (大16)

夏中聖地避塵縁

夏中の 聖地に 塵縁を 避く

奥院徑邊涼亂蟬

奥の院 徑邊 乱蟬涼し

墳墓蒼苔連作列

墳墓の 蒼苔 列を作して連なり

武人敵對共黄泉

武人 敵對せしも 共に黄泉

【通釈】

夏の最中に、聖地、高野山へ

世俗をはなれ詣でた。奥の院に

通じる参道は杉木立に囲まれて

おり、おりしも、無数の蟬の声

が聞かれたが、通常やかましく、

かつ、暑苦しくさえ感じられる

その声も、森閑とした荘厳なる

この地においては、不思議にも

涼しささえ感じられた。蒼く苔

蒸した墳墓の数は数知れず、歴

史を彩った著名人も多い中、織

田信長に明智光秀、武田信玄や

上杉謙信等かつては敵対した武

将達が今は、同所に眠っている

のは、何とも感慨深いものがあ

った。

以上

「初夏」

【庚】韻 平起式

田川 行雄 (大9)

薰風新緑雨初晴

薰風 新緑 雨初めて晴る

庭院青苔處處明

庭院の苔青くして 処々明なり

蛙鼓蟬聲眠易破

蛙鼓 蟬聲 眠り破れ易く

家郷如夢憶吾兄

家郷 夢の如く 吾が兄を憶う

【通釈】ようやく雨も晴れ、初

夏の風に緑も鮮やかだ。苔も

青々として庭全体が明るくなっ

たが、カエルや蟬の声がやかま

しくて眠りを妨げている。この

ような季節になるとふるさとが

夢のように臉に浮かび、昨年亡

くなった兄を思い出してしま

のだ。

絵画「思い」

滋野 輝彦 (大17)

油絵は六十一歳から教室に入

り、仲間の方々と楽しく時間を

過ごしております。

(絵は印刷の都合上白黒のモノ

トーンです。原画には部分によ

りわずかに色彩を入れていま

す)



平成29年度東京支部年会費ご納付ありがとうございました。

平成29年11月30日現在

大 乾 2	大 渡 前田川	大 1 森 1	工 1 山 矢 保 西 高 相 加 岡	東 24 松 前	東 23 箕 橋	東 22 豊 竹 鈴 犬 井	東 21 加 5	東 井 4	東 葛 20	本 高 小 19	本 山 17
哲 彦	辺 田 中 本	田 本 田 本 田	本 正 澤 木 馬 納 田	本 川 浦 本	本 田 内 木 塚 口	弘 政 登 昌 博	藤 上 上	藤 上 上	宗 一 郎	木 笠 幸 滋	口 武 美
斎 藤 高 康	小 林 高 康	草 生 仁 実	川 村 知 治	河 合 和 男	岡 谷 毅 丈 夫	大 大 久 保 井 宿 木 島 井 西 上 川 口 谷 田 上 島	大 安 松 箸 樋 竹 杉 佐 粕 今	大 増 中 清 水 引 宮 田 柴 岡	大 3 水 新 柴 岡	大 3 水 新 柴 岡	大 3 水 新 柴 岡
藤 本 裕 一 郎	平 瀬 武 明	西 田 廣 彦	西 田 徹 雄	中 川 和 司	中 川 和 司	大 大 尾 小 池 8	大 東 富 西 鈴 佐 浦 磯 7	大 玉 三 藤 久 林 橋 中 田 高	大 7 玉 三 藤 久 林 橋 中 田 高	大 7 玉 三 藤 久 林 橋 中 田 高	大 7 玉 三 藤 久 林 橋 中 田 高
堀 内 俊 和	平 居 村 俊 和	田 守 貞 夫	田 守 貞 夫	田 守 貞 夫	田 守 貞 夫	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10
細 江 謨 夫	富 田 博 樹	柘 野 木 悦 司	木 下 村 老 山 井 山 田 川 淵 口 村 井 山 村 藤 口 木 地 崎 山 田 出 堂 村 藤 林 谷 奈 村 野 川	大 丸 葛 石 古 羽 名 中 土 古 北 加 小 天 14	大 丸 葛 石 古 羽 名 中 土 古 北 加 小 天 14	大 丸 葛 石 古 羽 名 中 土 古 北 加 小 天 14	大 丸 葛 石 古 羽 名 中 土 古 北 加 小 天 14	大 丸 葛 石 古 羽 名 中 土 古 北 加 小 天 14	大 丸 葛 石 古 羽 名 中 土 古 北 加 小 天 14	大 丸 葛 石 古 羽 名 中 土 古 北 加 小 天 14	大 丸 葛 石 古 羽 名 中 土 古 北 加 小 天 14
村 尚 文	西 清 悟	森 紀 正	德 秀 和 雄	田 清 和 司	小 居 清 和 司	北 居 清 和 司	影 居 清 和 司	市 居 清 和 司	大 前 聖 中 山 蔵 西 並 中 柘 柴 滋 栗 川 岡 池 17	大 前 聖 中 山 蔵 西 並 中 柘 柴 滋 栗 川 岡 池 17	大 前 聖 中 山 蔵 西 並 中 柘 柴 滋 栗 川 岡 池 17
青 木 美 憲	池 田 保 稔	林 田 保 稔	戸 田 保 稔	西 村 廣 一	岡 野 友 弘	坂 上 延 川 田 野 井 井 辺 森 田 竹 芝 小 門 小 伊 和 山 平 永 中 柴 奥 19	大 前 聖 中 山 蔵 西 並 中 柘 柴 滋 栗 川 岡 池 17	大 前 聖 中 山 蔵 西 並 中 柘 柴 滋 栗 川 岡 池 17	大 前 聖 中 山 蔵 西 並 中 柘 柴 滋 栗 川 岡 池 17	大 前 聖 中 山 蔵 西 並 中 柘 柴 滋 栗 川 岡 池 17	大 前 聖 中 山 蔵 西 並 中 柘 柴 滋 栗 川 岡 池 17
山 脇 一 郎	山 脇 一 郎	長 井 村 林 田 島 尾	玉 村 林 田 島 尾	小 山 林 田 島 尾	能 田 島 尾	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10
脇 一 郎	山 脇 一 郎	長 井 村 林 田 島 尾	玉 村 林 田 島 尾	小 山 林 田 島 尾	能 田 島 尾	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10	大 大 宇 佐 田 三 中 山 山 細 服 畠 中 坪 白 石 井 10

高河本與松齊仙湧濱德田一^{大24}松中與玉若公松玉棚堀岸中堀平野近大青深西田品稻^{大23}島川北西
木江田村永藤田川保山中円井村村井林文田置橋江上岡内本村藤矢木谷以口川波崎分野山
泰吉淳美裕修勝晃恒正善勝浩達信治辰慎和浩義勝武市靖久良悦信啓敏正
章平弘一弘士三巳夫均男之嗣己司也寛郎久司稔一夫三裕則良修史郎純夫三夫一博史彦志

杉神川土小足木岩^{大27}稻夏堀田上京高重近高長池^{大26}香川大福高永中岡中岩安楠山田石^{大25}味鷺川
本田寄田松立戸崎住目井中林極見田森瀬本山久森田橋田村本尾井井田本村黒田尾崎
利憲信秀利浩博博忠照好政政彦誠莊保茂康康雅幸佳和喜芳哲弘俊^一耕秀重
彦樹二仁央次文之均彦仁己一好史博義豊次司隆勉延夫彦典勝博史彦重弘治昭郎二樹喜

緒牧飯中坂吉浅^{大29}野桑田中行堀竹岩岡與宮小岡吉馬服西中池日篠後木大^{大28}土增稻橋溝柏大小
方野塚野根本見村島中森舎田内間本田崎杉野永場部川野下野田藤元野居田生本口木村川
俊浩達準喜英幸基恭敬修勝慶吉祐茂純敬元克雅正世誠光達義教直信義
輔武彦也徹一徹一郎彰広雄修史二司彦一史司樹明夫修啓廣之教亨和剛宏也人之志悟勝朗彰

四渡福難藤檀^{大31}武松山鮫山横野神船磯目藤浅和吉島大^{大30}柳田藤荒山西大上小片酒鈴川中古增
方部田波井上田本口島本江村野橋野黒坂野田田江田中原木本森下田辻山井木北鹿田田
省徳浩史吉義寛嘉正孝裕伸和祐卓昌繁大康哲成昌俊裕和雅信真妙嘉教武悟憲
吾一実明登明史幹明行明行郎善夫也寛宏也信喜輔浩也治彦雄之善司子一子登義宏哲朗彦

大^{大38}荒小服定河永高久^{大37}高^{大36}志能清^{大35}穂当梅桂岡島加^{大34}高北北今西清^{大33}中水柳居斜田酒^{大32}足
原井西部兼合瀬木野井賀登水積野岡田武津藤倉野尾田野塚井上憲田木邨井立
孝佳浩克敦尚康秀康英範秀実敦和俊泰正英達忠光康一早智伸彦樹就隆
明伸智進之典彦久成樹仁彦之明夫司也雄幸篤成明也淳宏徳治弘郎

阪^{大47}渡平佐中王^{大46}青森牛水飯北^{大45}吉^{大44}飯^{大43}畑^{大41}納塚立山山北河山^{大40}宮蒔堀市^{大39}三竹柴北松岸
上辺瀬藤西木下島島塚尾村塚瀬庄本木本根川合本本田江川井村田川澤野
祐邦む尚めぐみ曉聡玲宏里穂奈郎子吾則樹裕幸一之幹樹昌嗣司郎雄彦起克三樹進史

伊中湯八藤松^{大57}鶴根^{大56}和^{大55}大濱^{大54}岩^{大53}梅矢松^{大52}脇矢^{大51}中津隈岸岡重鈴寺平秋^{大50}徳岸湯^{大50}上弥笠^{大48}
勢島浅木波田見本田谷田川田野江田田限村盛木本山川本浅梶田浪
健智友岳智慎裕由和有正祐里大昌健寛達和基大祥大直喜晋信干有
二郎孝枝人彦佑進子将弘香幸貴子枝輔之一之也哉温介子輔登則作介城三真

院^{大29}若^{短14}沼^{短13}日^{短9}傘^{短6}松北^{短5}清^{短4}濱市村^{大64}池泉望逆丹^{大63}片木中^{大62}長谷川井元^{大61}鳥^{大60}久伊濱秋粟^{大58}
浪林田高木澤水岡橋越田水月川羽山村島拓佑雅広大英友今日子
真亘満次三稔太郎彦也太恵紀裕夫治茂太智哲来瞳太已知智嗣歌

片岡松武中小池木公大西竹森徳川大乘杉今前^{寄付金提供者}院^{大41}院^{大33}
山村本田野辻下戸文矢村森地北村富山井田田矢野
妙和吉達真雅博信太武穂二紀康直俊常偉里
子哉幹史也一之文郎史積郎正之行昇二武清量美枝

エレベーター等、輸送機械の営業、設計、製造、据付
保守サービス、モダニゼーションに関する全業務



守谷エレベーター

ISO9001 認証取得

守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長 守谷 貞夫(大12回)
田村 寿夫(大12回)

本社・第一工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9 TEL(045)785-3111 FAX(045)780-1881
テクニカルセンター 〒236-0004 横浜市金沢区福浦2-15-1 TEL(045)785-3120 FAX(045)785-6420
東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-12-8八丁堀SFビル7F TEL(03)6228-3460 FAX(03)6228-3350
大阪支店 福岡支店 宇都宮工場 名古屋支店 埼玉事務所 札幌出張所 上海守谷電梯有限公司

駐車場の総合コンサルティング

日本駐車場開発株式会社

(東証一部上場 証券コード2353)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸ノ内ビルディング

〒100-6510 電話 03-3218-1900

ホームページ <http://www.n-p-d.co.jp/>

取締役副社長 川村 憲司(大37回)

編集室 所感

陵水会東京支部総会は本年も大変盛況で、三十年度は更に盛況にしようとする幹事諸君が頑張ってくれております。わが「東京陵水」もその一役を担おうと編集部一同頭を絞っておりますが、その特筆すべきこととして、四名のフレッシュなメンバーが編集部員として参加してくれたことです。

彼らは本号の企画段階から積極的に参画し、取材や記事の作成に大変頑張ってくれました。読者の皆様が本号を手にして、その変化を感じ取っていただけたら幸いです。次号以降ますます力を発揮してくれると思えます。次号以降にご期待ください。

平成九年十月の支部総会で「東京陵水」編集担当に任じられてから二十年を経過し、「デスク」の仕事から降ろさせていただくことになりました。今年度から新進気鋭の若手が登場、本紙紙面の充実が更に図られてまいります。一層のご支援をお願いいたします。

(H)

(T)

「会報」原稿・情報「送付先

陵水会東京支部
ホームページアドレス
<http://m-p-o.co.jp/tokyoryosui/>

林 史欣(大8回)
〒164-0014

中野区南台2-15-10
(TEL・FAXとも)

03(3381)4431
※編集室のメールアドレスは

hysckys@nifty.com
(次号分々切日十月末日)

発行所

〒236-0004
横浜市金沢区福浦1-14-9

守谷輸送機工業(株内)

陵水会東京支部 支部長 竹森二郎
電話045(785)3716

印刷所

〒110-0015

東京都台東区東上野1-28-3

船舶印刷(株)

電話03(3831)4181